

校内資料

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーター」を育成するために！

平成 29 年度

高専授業アンケート調査結果

[報告書 **抜粋**]

国際高等専門学校

平成29年 高専授業アンケート調査結果について

学校の教育プログラムの内容や効果は、さまざまな立場の人々にとって重要なものです。学生、保護者、雇用者、社会全般、そして教職員は、教育プロセスの実践や結果に「利害関係」を持った「関係者」です。学生は必ずしも自分で自由に選んだとは限らない活動、すなわち学校が選んで用意した活動に、何年にもわたって多くの日々と時間を費やすことになるわけですから、学生にとって「関係者」は特に大きな存在となります。

学生はその教育の結果が、時間と労力を投資するに値するかどうかすぐにはわからないかもしれません。大人として社会経験を何年も積んで初めて、教育の価値を高く評価できるようになるでしょう。しかし学生は、短期間の学習で得られる成果をよく見抜くため、学生自身の感情や反応は特に学習プロセスとそのプロセスの結果の有効性を見る大切な機会になります。そして学生の学習経験に対する反応は、プログラムの有効性を強調する前向きな経験にも、プログラムを妨害する後ろ向きの経験にもつながることになるのです。

学んでいることが理解できたり、新たな技術を習得し上達していく過程で、私たちは満足感や達成感を感じることができます。このことは、学生・教員両者にとって、学びの動機づけの力強い原動力となっていると言えるでしょう。我々教員が、学生の好奇心やモチベーションを促し持続させる上で最も重要なのは、教員自身の学びに対する欲求を、学生に示すことです。研究活動、効果的な教え方の習得、本校の様々な教育プログラムへの普段からの評価、見直しなどがそれに当たります。

以上のことから、授業アンケートは学校が学生に提供する学習活動や経験の価値と有効性を評価するための非常に重要な手段になります。この授業アンケートは現在の結果を精査する一手段となっており、教育プログラムを改善する試みがなされた際に、結果として生じた変化を追跡することも可能です。

私たちはCDIOスタンダードに基づき、教育プログラムを継続して改善していくために、注意深くこのデータを分析していかなければなりません。アンケート調査結果は、これらの試みに対する結果を観察するうえで特に重要なツールとなります。何より大切なのは、私たちが学生に最善の教育を提供できているのかをこのアンケートによって確認することなのです。

ここに高専教育評価委員会、教員の方々、学生、そしてこの調査にご協力いただいたすべての方々に感謝を記したいと思います。

平成30年5月

国際高等専門学校
校長 ルイス・バークスデール

The content and effectiveness of a school's educational programs are important to many categories of people. Students, guardians, employers, society at large, as well as faculty and staff all have a stake in the operation and outcomes of the educational process. For students the stake is especially large, since students devote hours of their days over years of their lives to the activities chosen and directed by a school, not necessarily chosen freely by the student.

A student might not know right away whether the educational outcome is worth his or her investment in time and effort. It may take years of experience as an adult in society before the worth of an education can be appreciated. Even so, learners have good insight into at least the near-term outcomes of their studies, and the feelings and reactions of the students themselves provide an especially valuable window on the effectiveness of the learning process and the outcomes of that process. And student reactions to their learning experience feed back into that experience—positive experiences enhancing the effectiveness of a program, and negative ones hindering it.

It is a natural human desire to want to learn, and there is a sense of satisfaction and mastery when we advance in understanding or in skill. This is the powerful engine that motivates learning, for both students and teachers. The most important way in which we teachers can foster and maintain the curiosity and motivation of our students is for us to exhibit the desire to learn ourselves. This includes researching and acquiring effective teaching methods and constantly monitoring and improving our educational programs.

The course questionnaire data is thus a very important tool for assessing the value and effectiveness of learning activities and experiences that the school offers its students. It provides a way to probe current results, and also enables the tracking of changes as efforts are made to improve the educational program.

We must carefully analyze this data in order to continuously improve our programs under the CDIO Standards. Course questionnaire data is a particularly important tool for monitoring the success of such efforts. Most important of all, we must monitor this data to ensure that we are giving our students the best possible education.

I would like to express my thanks to the ICT Education Assessment Committee, the faculty, the students, and all who helped with this survey.

May, 2018

International College of Technology, Kanazawa
Lewis Barksdale, President

1)調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、金沢高専の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、金沢高専全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであるが、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。

2)調査の概略

調査の概略は下記の通り。

項目	内容		
分析データ件数 対象者		H29年度のべ回答数	H29年度在校生数
	1年生	1,167件	80名
	2年生	1,485件	103名
	3年生	1,224件	88名
	4年生	1,469件	92名
	5年生	1,371件	103名
	全体合計	6,716件	466名
	・最終回収数は6,762件であったが、回答数が10件未満など、一部の科目(11科目、46件)は集計から除外している。		
対象科目	244科目(春・夏学期に実施された科目も含む)		
実施方法	・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく学生が事務局に届けるものとした。 ・回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。		
調査主体	学校法人 金沢工業大学		
集計	有限会社 アイ・ポイント		

3)実施スケジュール

H29年度の調査のラフスケジュールは下記の通り。

作業	ステップ	時期	備考
速報版作成作業	調査実施	1月31日～2月20日	各授業の最終日に実施(4年生のキャリアデザインのみ3月1日～3月3日に実施)
	データ入力	2月14日～2月21日	OMRにより処理
	速報版完成(4年生以外)	3月1日	4年生のキャリアデザイン以外のデータは2月21日に受け取り
	速報版完成(4年生)	3月6日	4年生のキャリアデザインのデータは3月6日に受け取り
最終報告書作成作業	報告書作成	3月30日	

4)集計に関して

- 加重平均:各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。選択肢が「そう思う～そう思わない」などのような段階的な選択肢を用いた。加重平均はこれらの選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
- 学科別の集計は「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報学科」の3つの学科で比較を行った。「グローバル情報学科」は新しい呼称であり、3年生から5年生は「グローバル情報工学科」の所属であるが、新しい呼称に統一している。
- 部会は「一般」「語学」「数理」「T(電気電子工学科)」「M(機械工学科)」「G・J(グローバル情報学科)」の6つとした。
- 回答数が10件未満などで除外した科目(11科目、46件)は下記となる。

●OP科目:6科目、21名

23071	電気回路Ⅱ(OP)	1名
23091	電気磁気学Ⅱ(OP)	1名
25202	材料力学Ⅰ(OP)	3名
25262	機械設計(OP)	2名
28133	情報処理Ⅲ(OP)	7名
28143	ビジネスシステム(OP)	7名

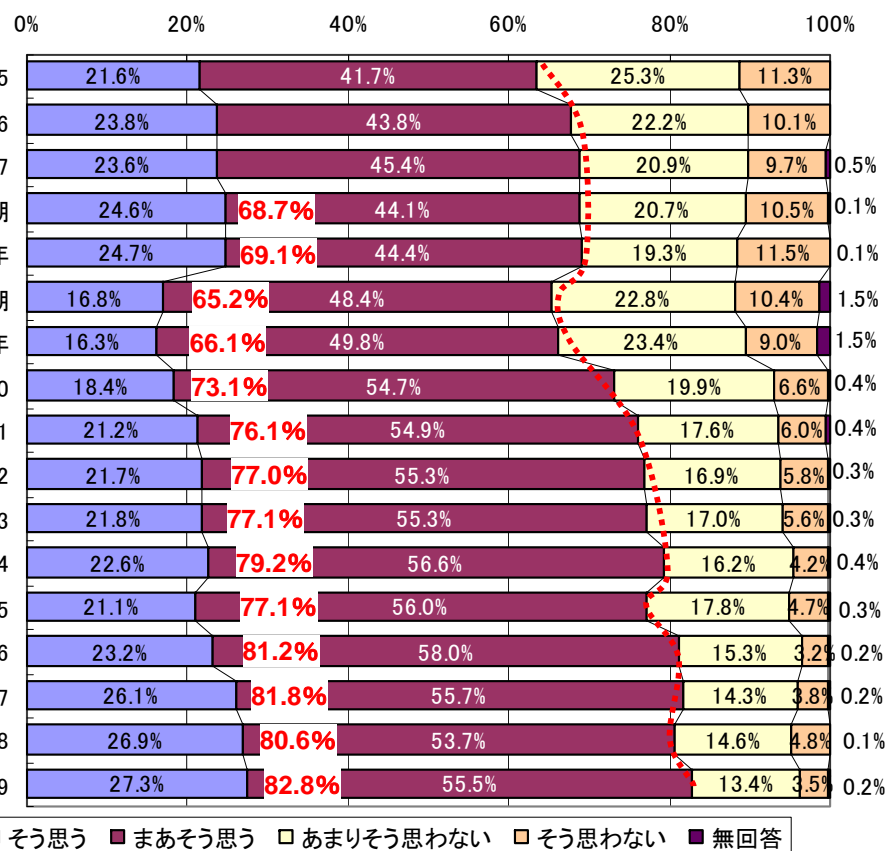
●回答数が10件未満:5科目、25名

21072	社会科学Ⅰ(旧カリ)	2名
24051	システム制御	4名
32111	海外英語研修	3名
32112	海外英語研修	7名
32113	海外英語研修	9名

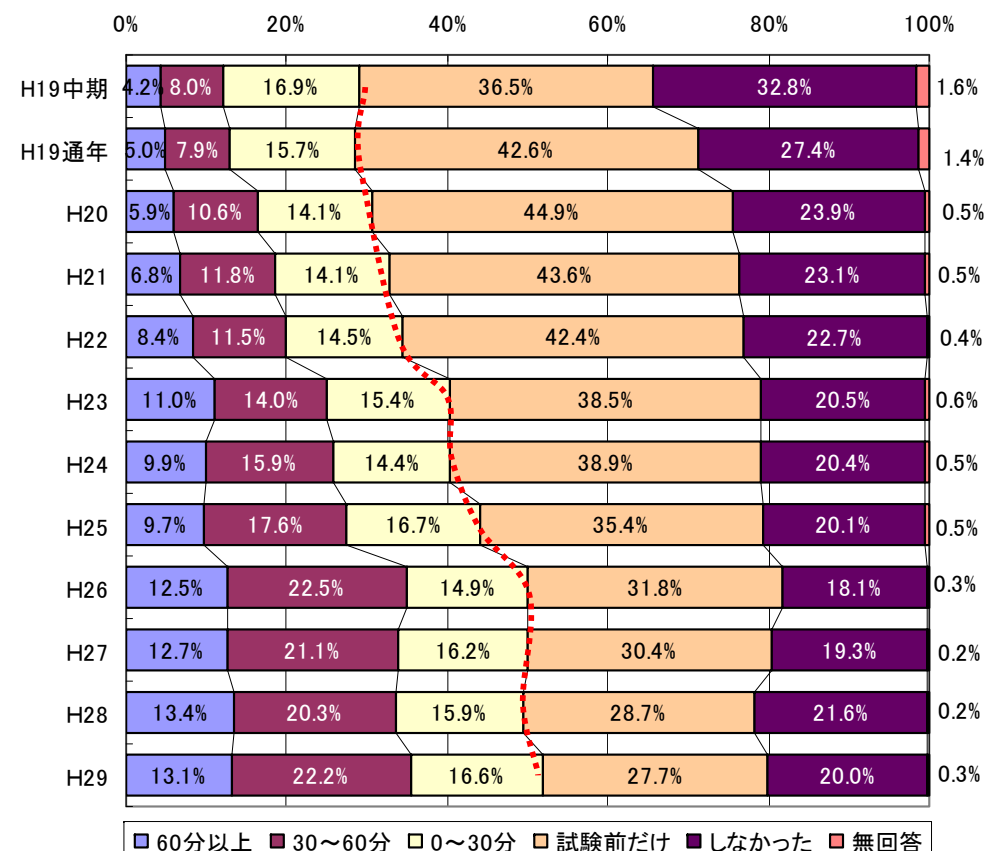
1) 授業への取り組み姿勢

- 「A. 授業への興味(あなたは、この授業に興味を持って受けられたと思いますか?)」に対しては、「そう思う」が27.3%と前回は0.4ポイント上回って過去最高となり、「まあそう思う」の55.5%を加えても過去最高の82.8%となった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間(この授業に対し宿題を含めて、どの程度予習・復習しましたか?)」では、「60分以上」が前回より0.3ポイント低下して13.1%であったが、「30～60分」が22.2%、「0～30分」が16.6%であり、ここまでを合わせると過去最高の51.9%となった。そして、「試験前だけ」は過去最低の27.7%であり、「しなかった」は前回より1.6ポイント低下して20.0%となった。

■ A. 授業への興味



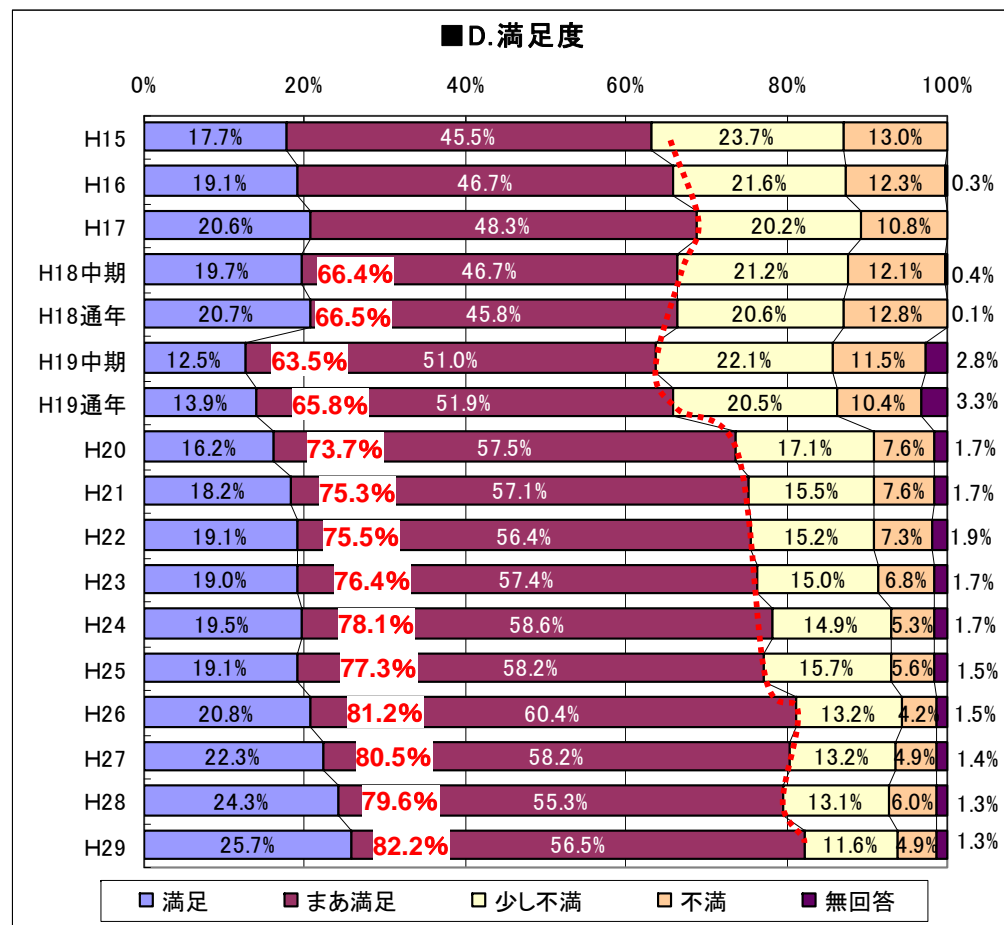
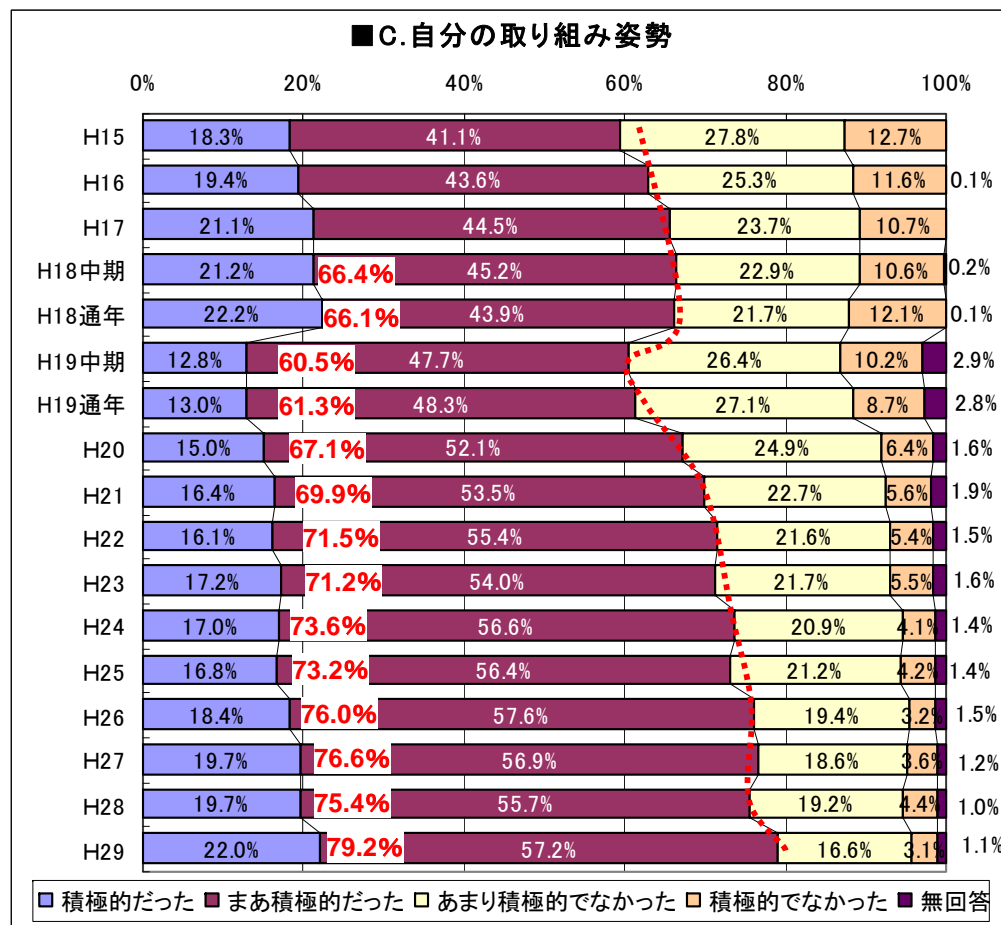
■ B. 授業に対する宿題、予習、復習時間



H18中期から
無記名化

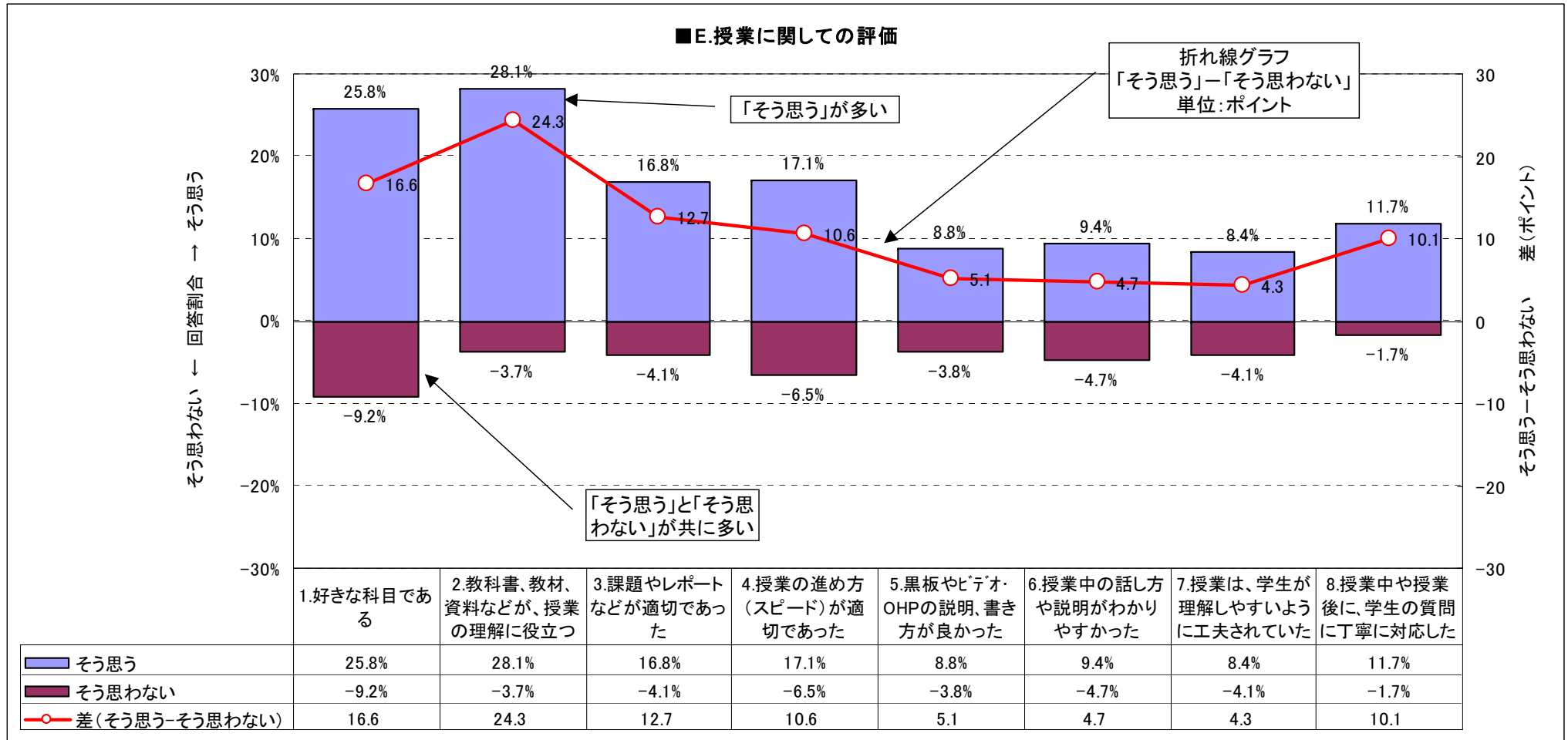
H19中期から
調査票変更

- 「C. 自分の取り組み姿勢(あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか?)」に対しては、「積極的だった」が22.0%で、H19中期の調査票変更後で最高となった。そして、「まあ積極的だった」が57.2%であり、合計の79.2%は前回は3.8ポイント上回って過去最高となり、約8割の学生が授業に積極的に取り組んでいることが分かった。
- 「D. 満足度(あなたはこの授業に満足していますか?)」に対しては、「満足」が25.7%と過去最高となった。そして、「まあ満足」の56.5%を加えると82.2%となり、過去最高の満足度となった。また、不満を感じている意見の合計は過去最低で、16.5%にとどまった。

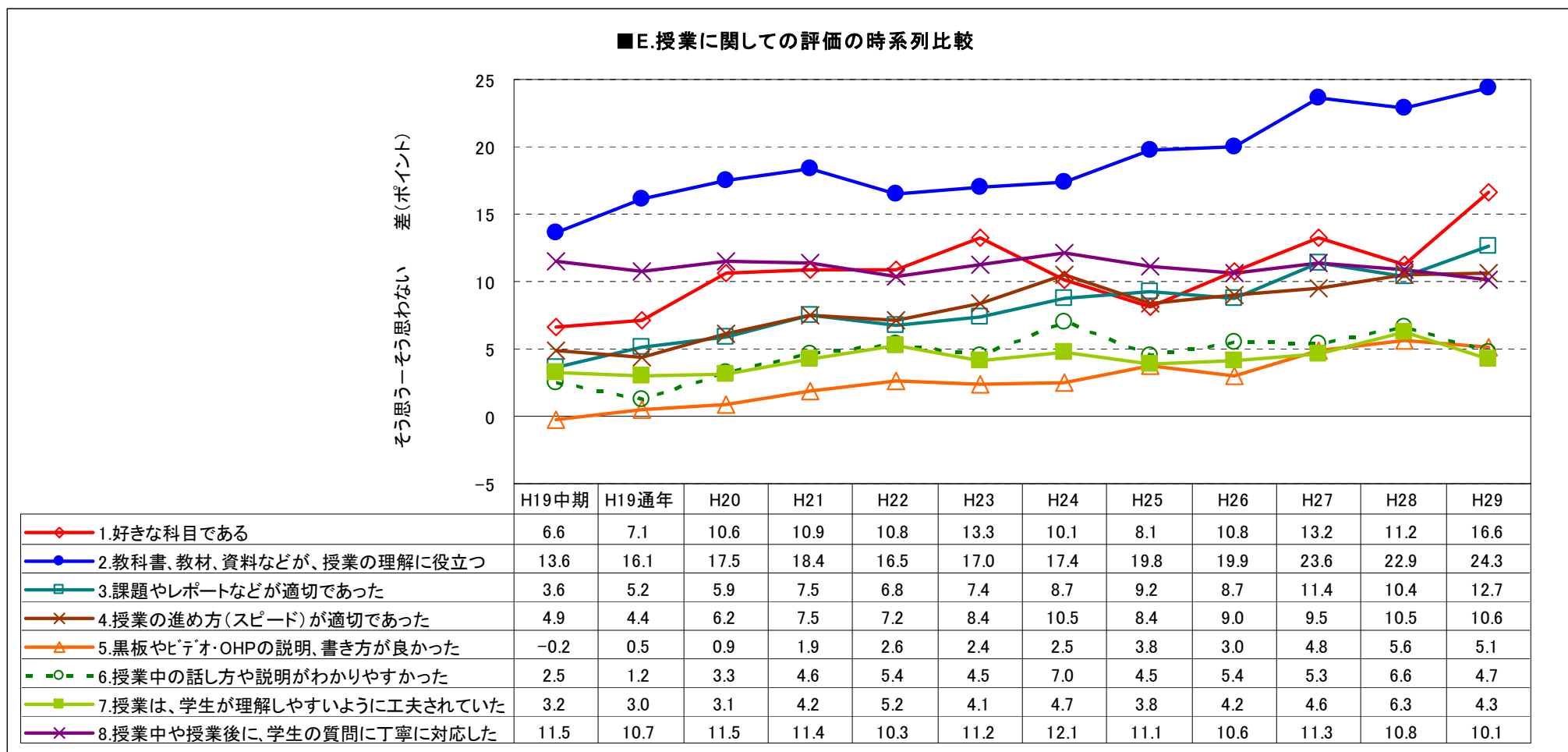


2) 授業に関する評価

- 「E.授業に関する評価」は、棒グラフのプラス側で「そう思う」の割合、マイナス側で「そう思わない」の割合を表現し、「そう思う」から「そう思わない」を引いた数値(単位:ポイント)を折れ線グラフで表現している。
- 「そう思う」が最も多かったのは「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の28.1%であり、「1.好きな科目である」が25.8%、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」が17.1%、「3.課題やレポートなどが適切であった」が16.8%で続いていた。
- 一方、「そう思わない」が最も多かったのは「1.好きな科目である」の-9.2%であり、この項目は肯定的な意見も2番目に多かった。そして、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」が-6.5%、「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」が-4.7%で続いていた。
- 「そう思う」と「そう思わない」の差は全項目でプラスであり、肯定的な意見の方が多かった。そして、最も差が大きかったのは「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の24.3ポイントであり、「1.好きな科目である」が16.6ポイント、「3.課題やレポートなどが適切であった」が12.7ポイントで続いていた。

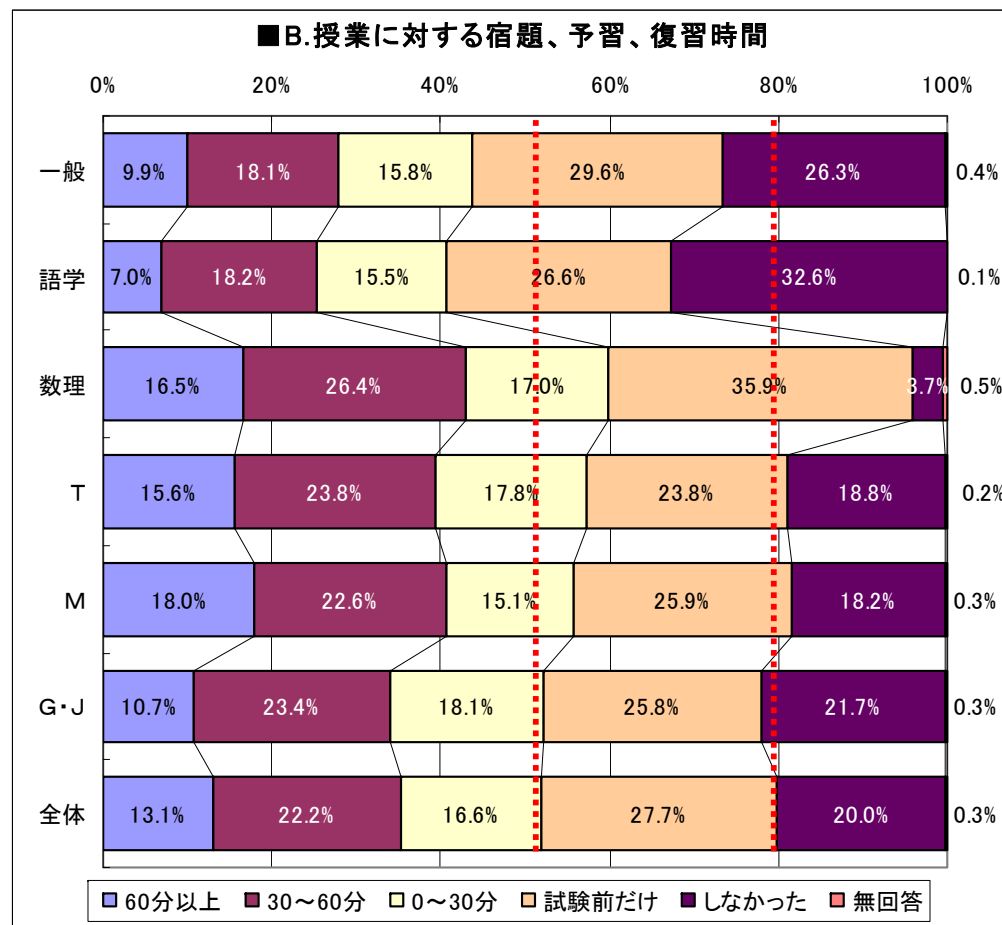
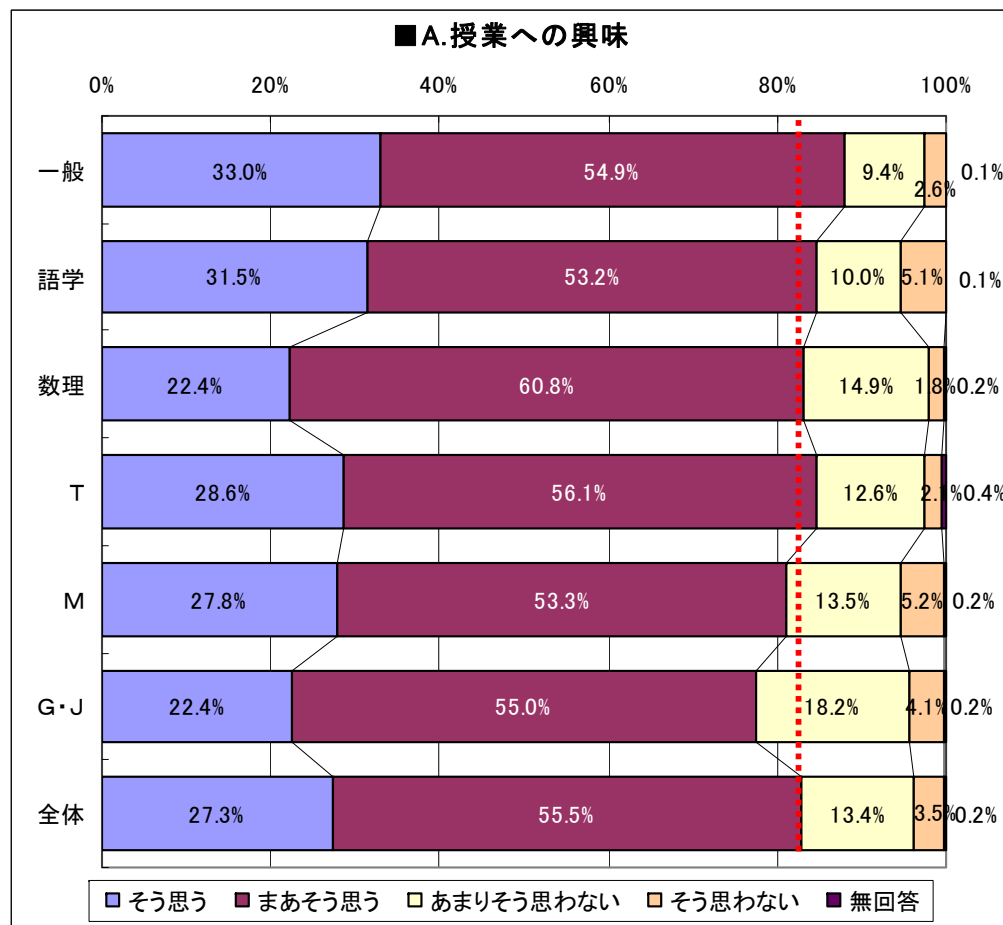


- 「E.授業に関する評価」の肯定意見と否定意見の差を時系列で見ると、「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の高さが目立っていた。また、今回は過去最高となり、「教科書、教材、資料」の評価は非常に高いと言える。
- 上記以外で前回は上回ったのは、「1.好きな科目である」「3.課題やレポートなどが適切であった」「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」の3項目であり、いずれも過去最高となった。特に「1.好きな科目である」の評価が前回は大きく上回っている点が特徴的であった。
- 8項目のうち4項目は前回は下回っていたが、いずれも低下はわずかであり、大きな変化は見られなかった。



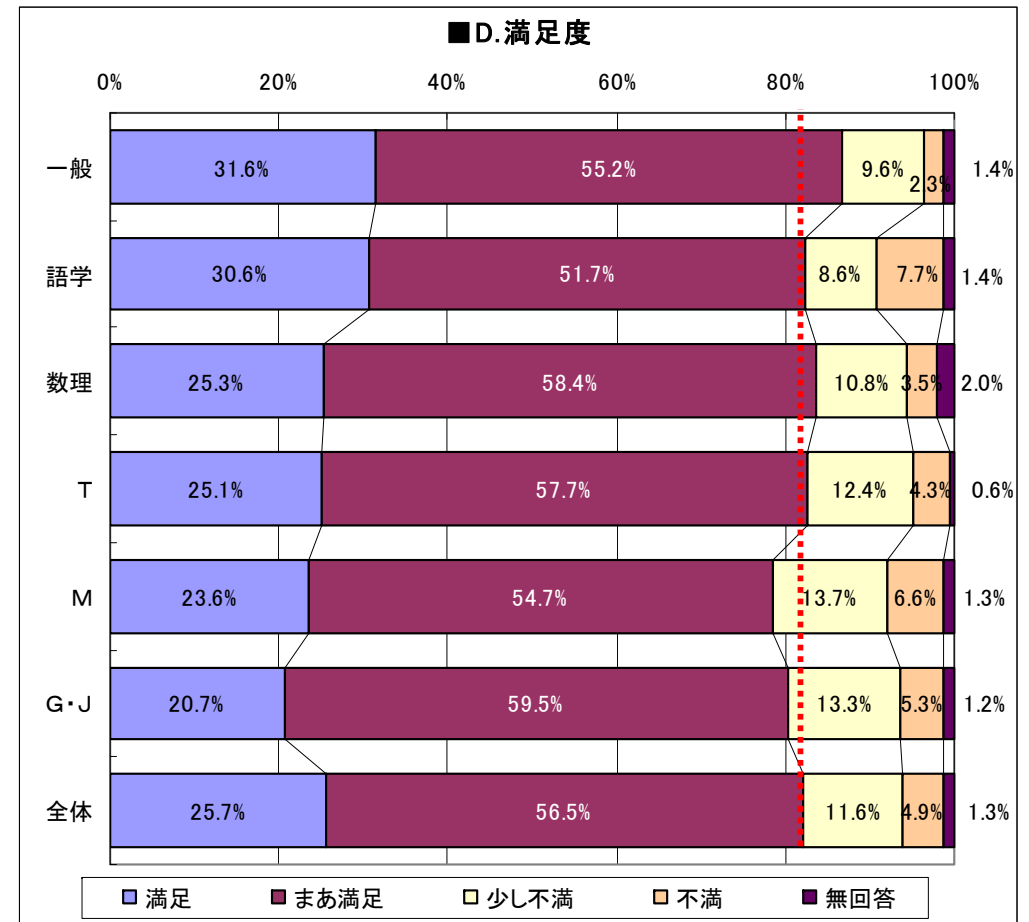
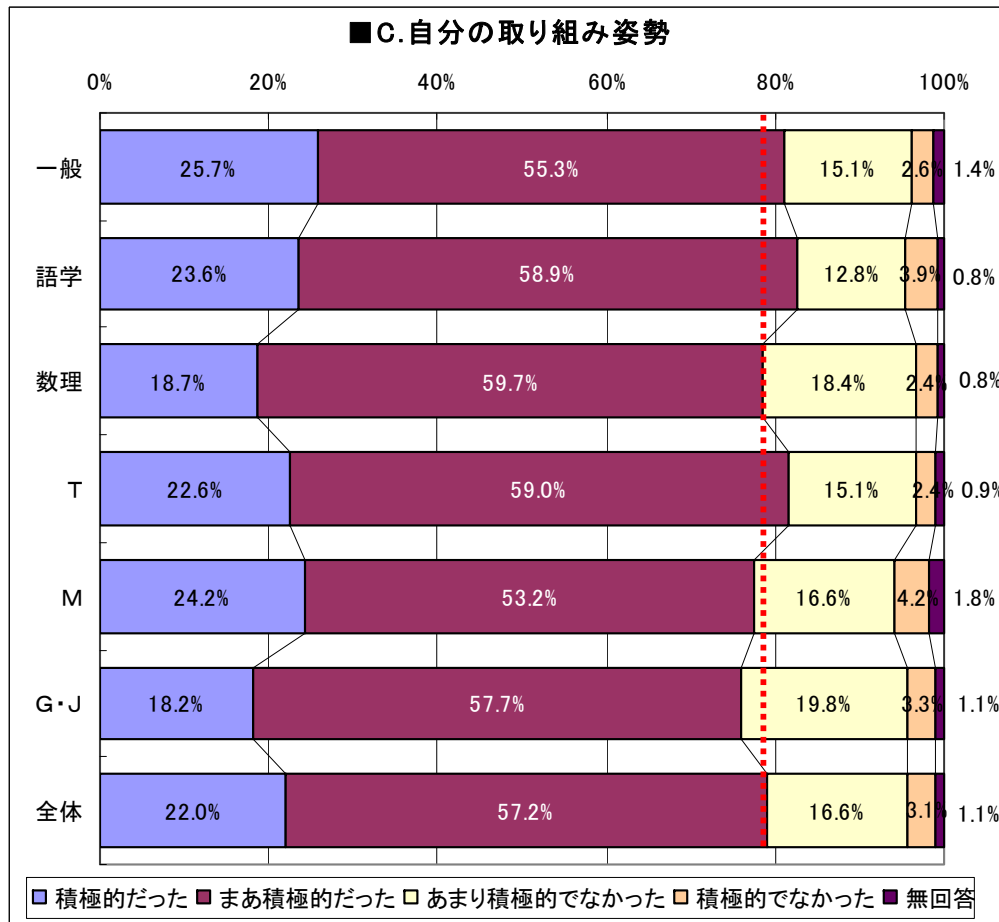
1) 部会別 授業への取り組み姿勢比較

- 「A. 授業への興味」を部会別に比較すると、「一般」で肯定的な意見が最も多く、87.9%が興味を持って授業を受けたと答えていた。次いで、「語学」と「T」が84.7%であった。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「G・J」の77.4%で、トップの「一般」との差は10.5ポイントであった。続いて「M」が81.1%、「数理」が83.2%であったが、「G・J」以外の部会では肯定的な意見が8割を超えていた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」を「60分以上」から「0～30分」までの合計で比較したところ、「数理」が59.9%で最も多く、「T」が57.2%、「M」が55.7%で続いていた。「数理」は最も勉強時間が長く、「しなかった」が3.7%と非常に少ない点も特徴的であった。
- 一方、最も学習時間が短かったのは「語学」の40.7%で、「一般」が43.8%で続いており、この2部会の科目では勉強時間が短いということが分かった。また、「語学」では、「しなかった」が32.6%と多い点の特徴的であった。



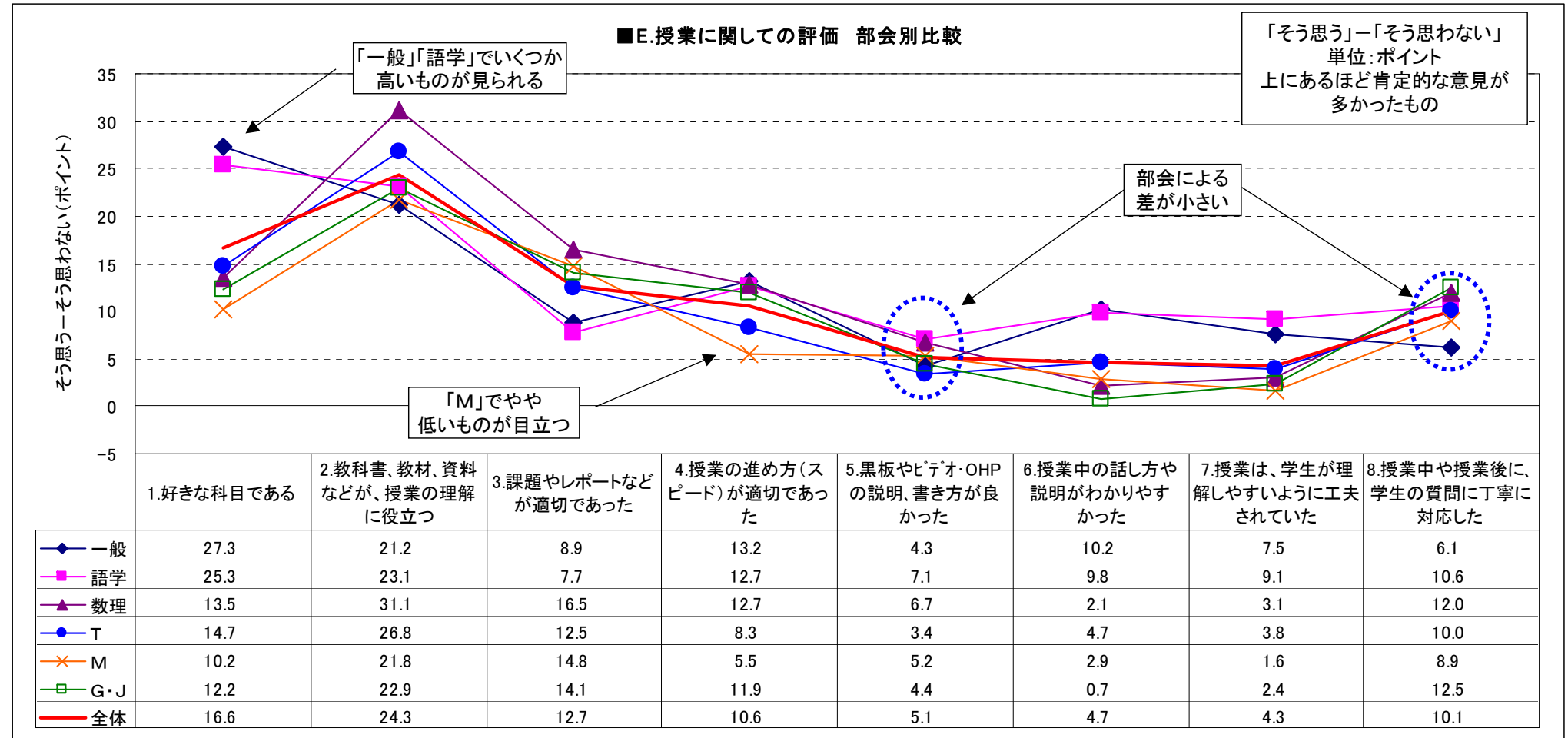
※部会の略称は以下の通り。T: 電気電子工学科、M: 機械工学科、G・J: グローバル情報学科

- 「C. 自分の取り組み姿勢」を肯定的な意見の合計で見ると、「語学」が82.5%、「T」が81.6%、「一般」が81.0%と続いており、この3つの部会では積極的であったという意見が8割を超えていた。一方、最も少なかったのは「G・J」の75.9%であったが、トップの「語学」との差は6.6ポイントと、それほど大きくはなかった。
- 「D. 満足度」で肯定的な意見が最も多かったのは「一般」の86.8%であり、「満足」だけを見ても31.6%を占めていた。次いで、「数理」が83.7%、「T」が82.8%、「語学」が82.3%で続いていた。一方、満足度が最も低かったのは「M」の78.3%であり、唯一8割を下回っていたが、決して満足度が低いとは言えない数値であった。



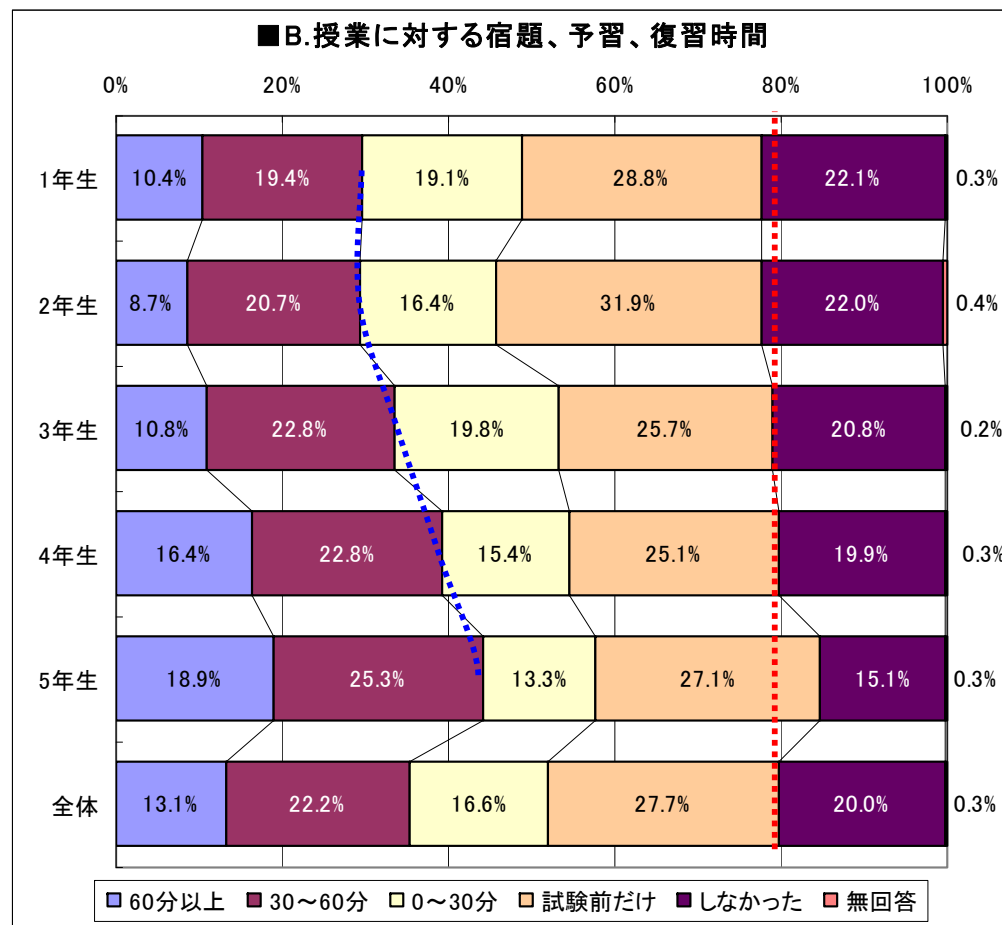
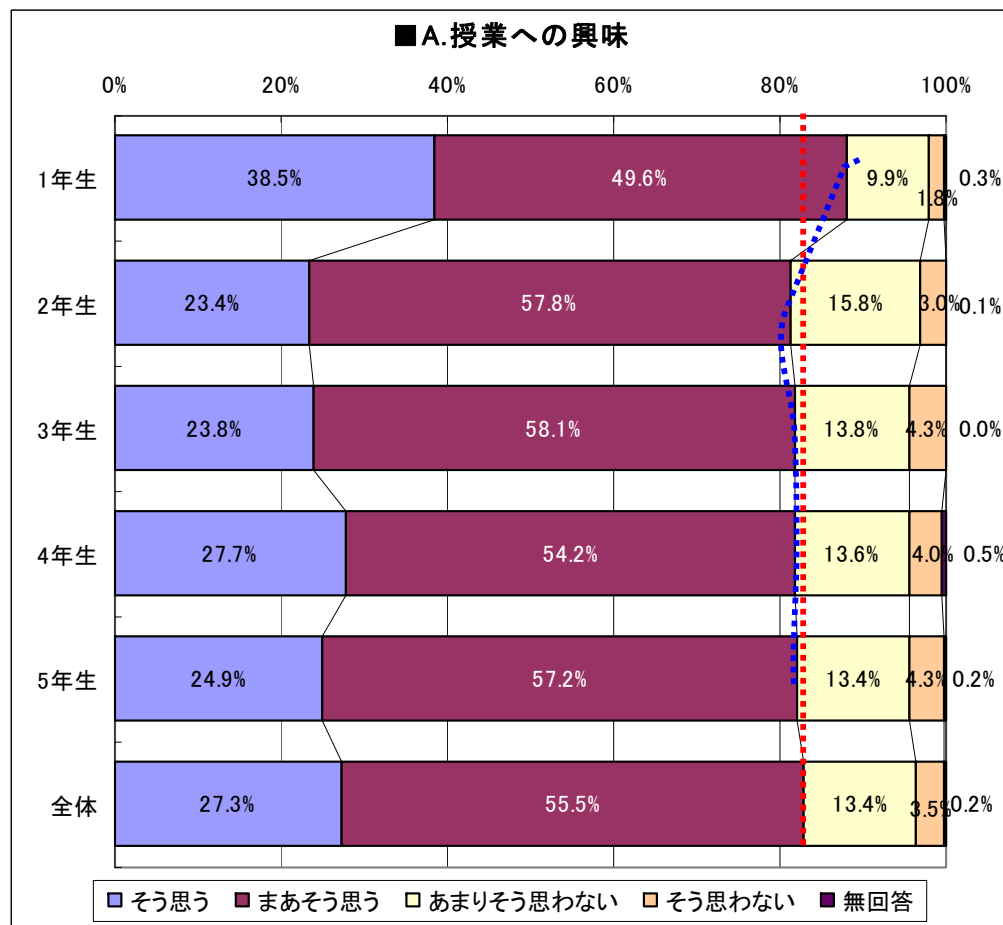
3)部会別 授業に関するの評価比較全体比較

- 授業評価を部会別に比較すると、「一般」と「語学」でいくつか高いものが見られ、特に「1.好きな科目である」の高さが目立っていた。しかし、2つの部会共に「3.課題やレポートなどが適切であった」が低いという特徴も見られた。
- 全体的に高いわけではないが、「数理」は「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」が高く、部会の特徴になっていると言える。
- 一方、全体的にやや低めであったのは「M」であり、「1.好きな科目である」「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」が時に低かった。
- 部会による差が小さかったのは、「5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった」「8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した」の2項目であり、部会によって差が付きにくい点と言える。

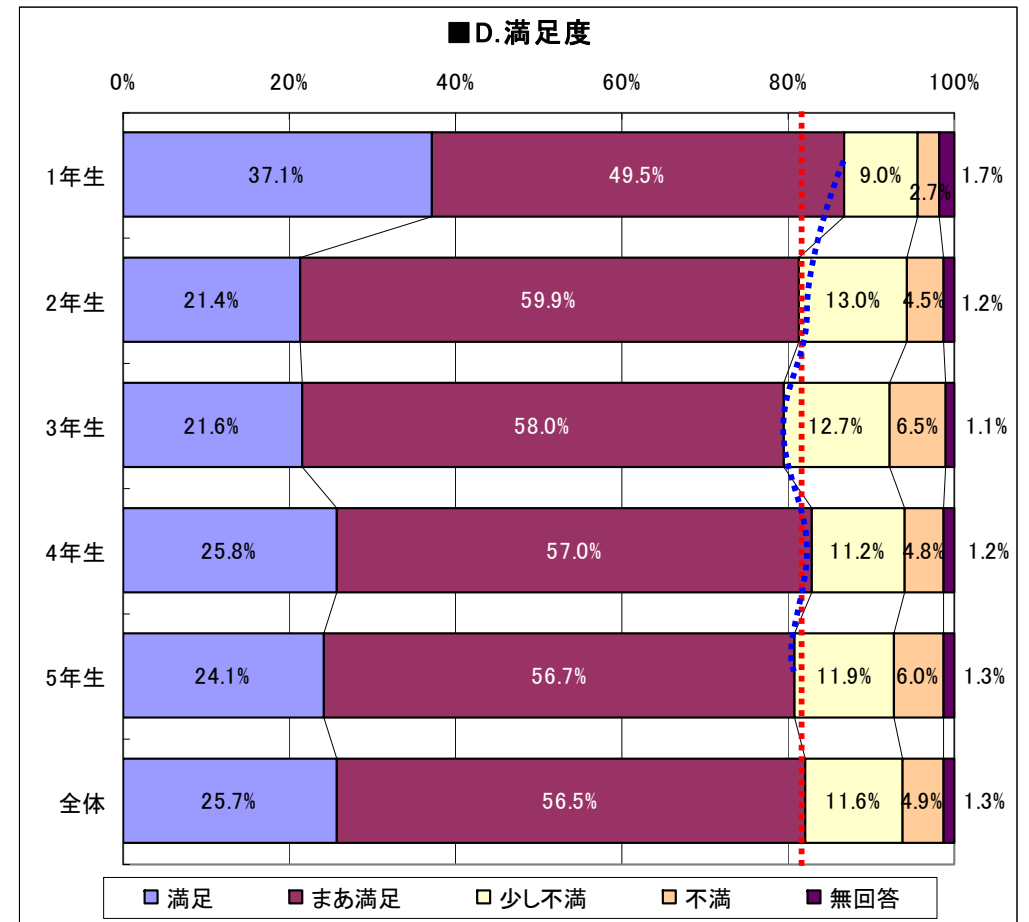
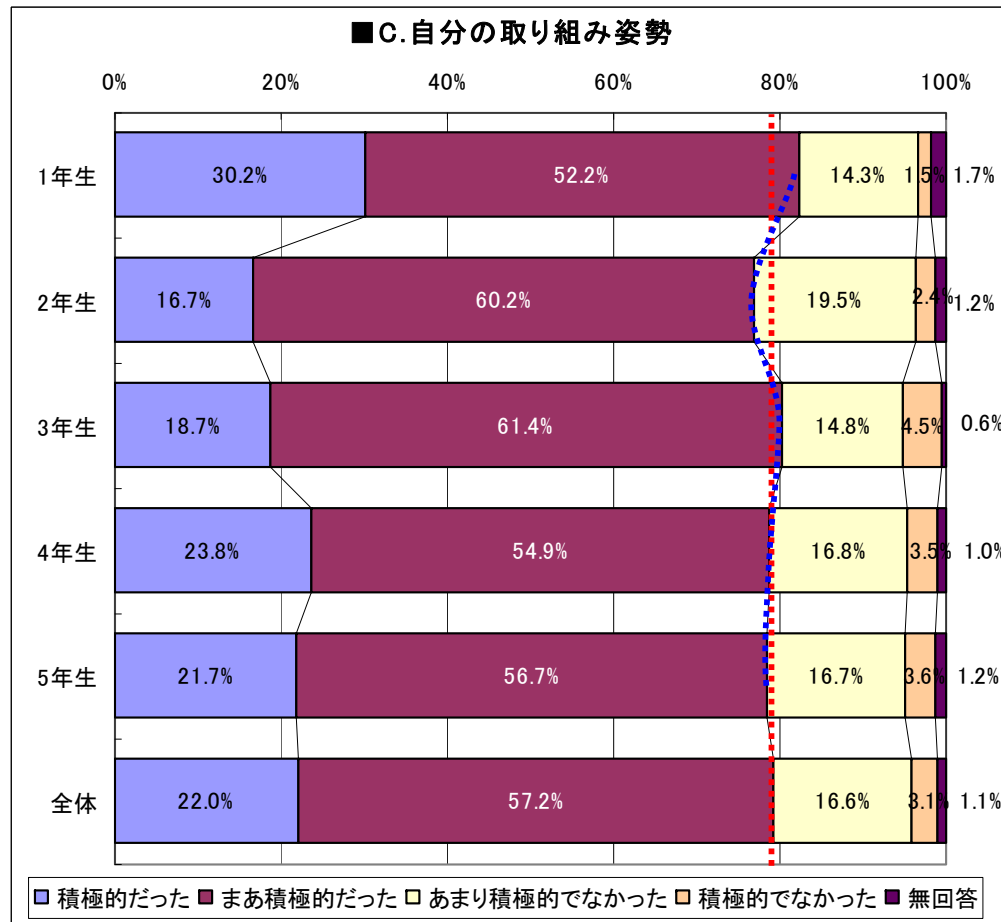


1) 学年別 授業への取り組み姿勢比較

- 「A. 授業への興味」の肯定的意見の合計を学年別に比較したところ、「1年生」が88.1%で最も多かった。また、「1年生」は他の学年と比べて「そう思う」の多さも目立っており、強い興味を持って授業を受けている様子がうかがえた。
- 「1年生」以外の学年の差は非常に少なく、最も低い「2年生」でも81.2%が肯定的な意見であり、学年との相関関係は見られなかった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」に関して、「60分以上」と「30～60分」の合計で比較したところ、「5年生」が44.2%で最も多く、次いで、「4年生」が39.2%、「3年生」が33.6%、「2年生」が29.4%となっており、学年が下がるほど学習時間が少ない傾向が見られた。そして、「1年生」は29.8%で「2年生」とほぼ同じであった。また、「しなかった」割合を見ると、「1年生」から「4年生」までは2割程度で差がなく、「5年生」が15.1%と少なかった。

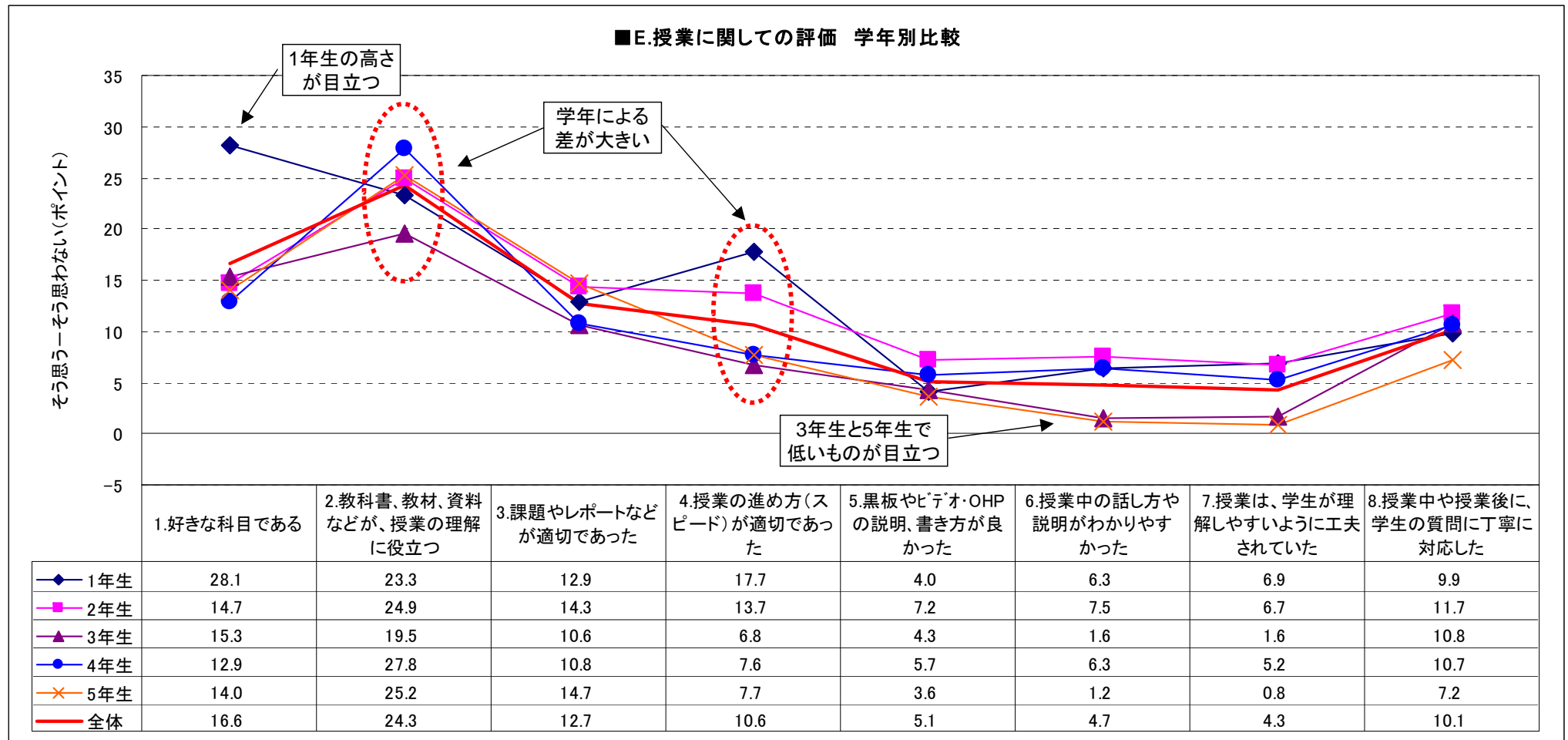


- 「C. 自分の取り組み姿勢」の肯定的な意見を学年別に比較したところ、「1年生」が82.4%で最も多かったものの、学年間の差は非常に小さく、最も少ない「2年生」でも76.9%であり、差は5.5ポイントであった。ただし、「積極的だった」だけを見ると、最も多かったのは「1年生」の30.2%であり、最も少ない「2年生」の16.7%との差は13.5ポイントになっており、「1年生」の積極性の高さが目立っていた。
- 「D. 満足度」の肯定的な意見の合計は「1年生」が86.6%と最も多かった。「1年生」は「満足」だけでも37.1%と他の学年と比べても多さが目立っており、高い満足度を示していた。「1年生」以外の学年の差は非常に小さく、「4年生」が82.8%、「2年生」が81.3%、「5年生」が80.8%、「3年生」が79.6%であり、いずれの学年でもほぼ8割が授業に満足していると答えていた。

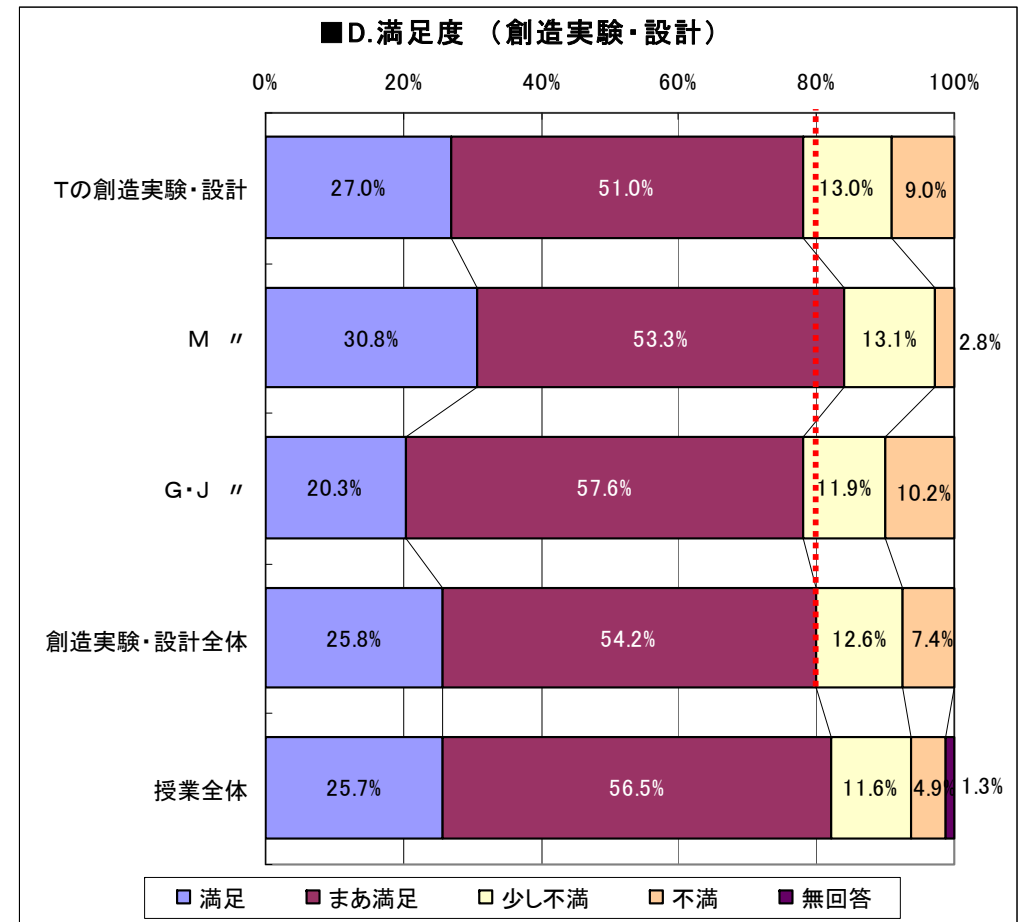
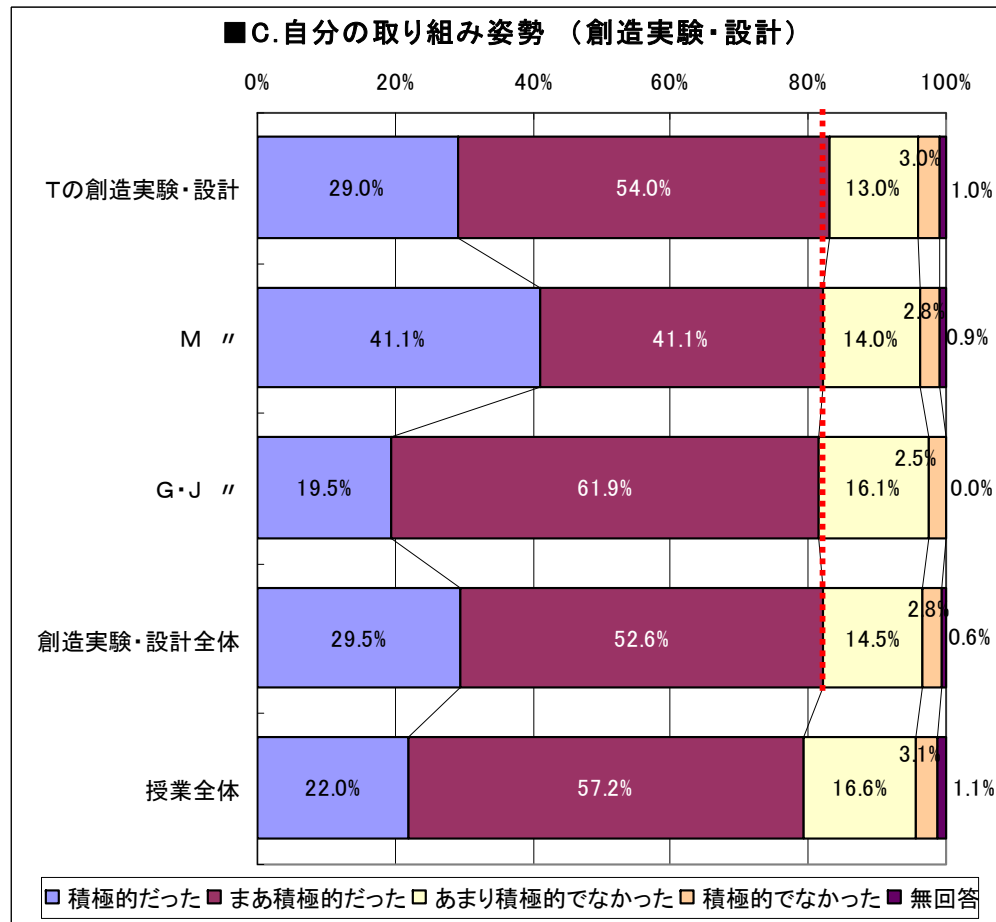


3) 学年別 授業に関するの評価比較全体比較

- 授業に関するの評価を学年別に見ると、「1.好きな科目である」と「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」で「1年生」の評価が非常に高い点が目についた。また、この2項目と「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」は学年による差がやや大きい、その他は学年間の差がそれほど小さく、評価に開きが見られなかった。
- 例外はあるが、「3年生」と「5年生」は全体的に低い傾向が見られ、特に「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」と「7.授業は、学生が理解しやすいように工夫されていた」の2項目の低さが目立っていた。

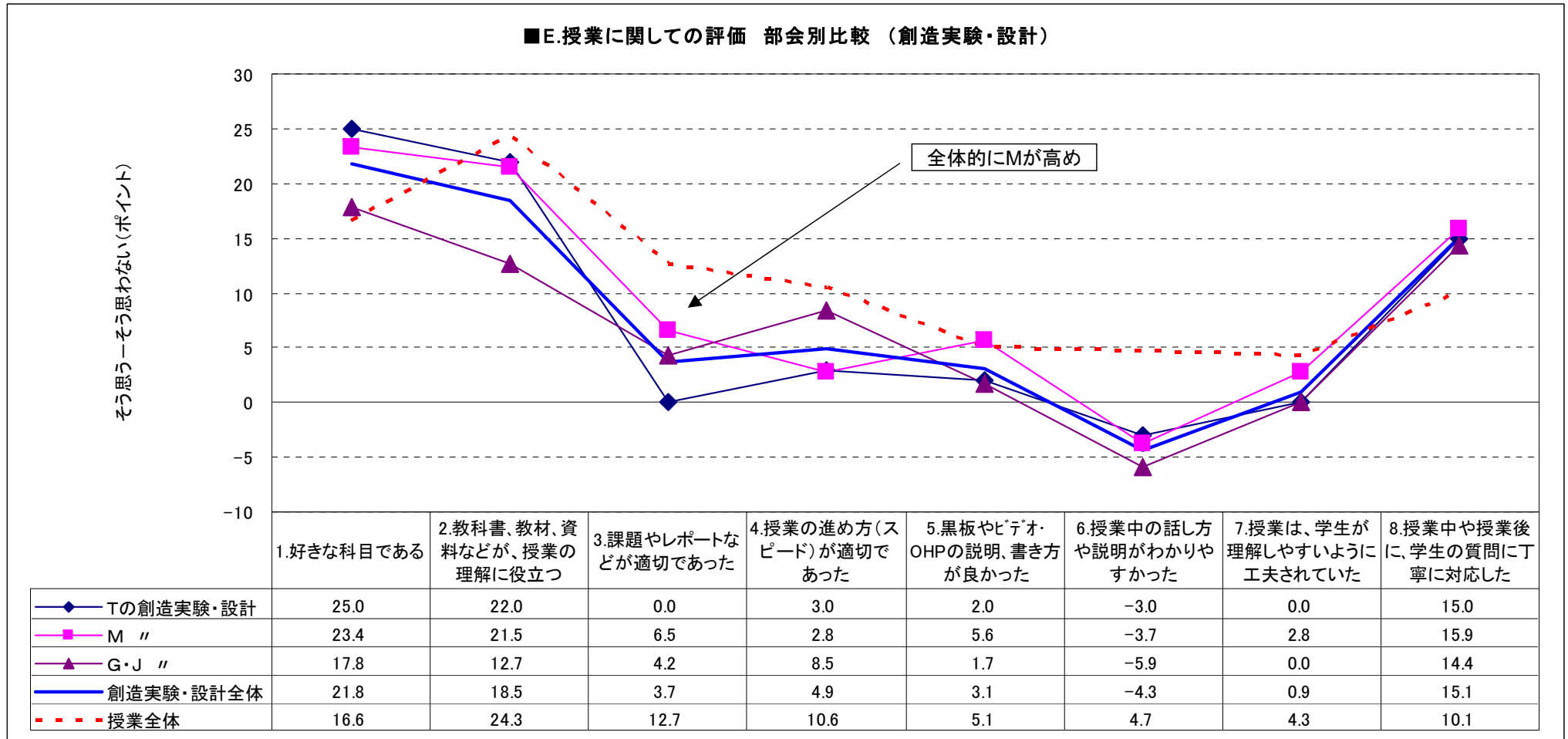


- 「C. 自分の取り組み姿勢」で肯定的な意見を見ると、「創造実験・設計全体」では82.1%であり、「授業全体」の79.2%との差は2.9ポイントで、大きな差ではなかった。部会別に見ると「T」が83.0%、「M」が82.2%、「G・J」が81.4%と、ほとんど差が見られなかった。ただし、「積極的だった」だけを見ると「M」は41.1%であり、高さが目立っていた。
- 「D. 満足度」は、「創造実験・設計全体」では80.0%が肯定的な意見であり、「授業全体」の82.2%との差は2.2ポイントで、大きな差ではなかった。部会別には「M」が84.1%とやや満足度が高く、「T」が78.0%、「G・J」が77.9%となっていた。肯定的な意見の合計で見ると、それほど大きな差ではなかったが、「満足」だけを見ると「M」の30.8%に対して「G・J」は20.3%であり、10.5ポイントの差がついていた。



3) 創造実験・設計の授業に関する評価比較

- 授業評価に関して「創造実験・設計全体」と「授業全体」を比較すると、「1.好きな科目である」と「8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した」の2項目は「創造実験・設計全体」の方が高かった。それ以外の項目は「授業全体」の方が高く、特に「3.課題やレポートなどが適切だった」「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」では大きな差がついていた。
- 部会別に見ると、差は大きくはないが全体的に「M」で評価が高いものが目についた。そして、「T」は目立って高いものは見られなかったが、「3.課題やレポートなどが適切だった」がやや低めであった。
- 「G・J」はやや低めの項目が多く、特に「1.好きな科目である」と「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の評価は他の部会に比べて低かった。しかし、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」は他よりやや高いという特徴も見られた。



1) 一般

- 「興味」「積極性」「満足度」を加重平均で点数化し、H28とH29のスコアを部会別に比較した。
- H29の「一般」では3指標共に「文化・芸術・思想ⅢB」の評価が最も高く、「興味」と「積極性」では「文化・芸術・思想ⅢA」が続いており、「文化・芸術・思想」に関する科目は上位10位以内に多く含まれていた。次いで「国語Ⅰ」が3指標共に上位3位に入っており、「興味」と「満足度」では、「社会科学」に関する科目も上位に入っていた。
- H28にも「文化・芸術・思想」に関する科目の評価は高く、「文化・芸術・思想ⅡB」は3指標でトップで、上位10位以内には関連の項目がいくつか入っていた。また、「社会科学」に関する科目は前回にも数多く入っていたが、今回上位だった「国語Ⅰ」は前回、「興味」と「積極性」でかろうじて上位10位以内に入っているだけであった。

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	文化・芸術・思想ⅡB	9.00	文化・芸術・思想ⅡB	8.89	文化・芸術・思想ⅡB	9.44
2	文化・芸術・思想ⅢA	8.24	文化・芸術・思想ⅢA	7.21	社会科学ⅡA	8.06
3	保健体育Ⅳ	8.16	デザイン概論A	7.08	保健体育Ⅳ	7.50
4	デザイン概論A	7.92	保健体育Ⅳ	7.00	デザイン概論A	7.27
5	社会科学ⅢB	7.61	社会科学ⅡA	6.94	社会科学ⅢB	7.27
6	文化・芸術・思想ⅡA	7.50	社会科学ⅡB	5.83	保健体育Ⅰ	7.26
7	社会科学ⅡA	7.37	日本語スキルズ	5.41	社会科学ⅡB	7.07
8	保健体育Ⅰ	7.26	保健体育Ⅱ	5.24	文化・芸術・思想ⅢA	7.06
9	国語Ⅰ	6.94	保健体育Ⅰ	5.10	社会科学ⅢA	6.88
10	社会科学ⅡB	6.83	国語Ⅰ	5.09	歴史Ⅰ	6.47

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	文化・芸術・思想ⅢB	8.46	文化・芸術・思想ⅢB	8.46	文化・芸術・思想ⅢB	9.17
2	文化・芸術・思想ⅢA	8.33	文化・芸術・思想ⅢA	7.08	国語Ⅰ	7.91
3	国語Ⅰ	7.60	国語Ⅰ	6.55	社会科学ⅢB	7.39
4	文化・芸術・思想ⅡA	6.82	保健体育Ⅲ	5.18	文化・芸術・思想ⅢA	7.27
5	社会科学ⅢB	6.30	日本語スキルズ	4.88	文化・芸術・思想ⅡA	6.59
6	社会科学ⅢA	6.04	保健体育Ⅱ	4.79	歴史Ⅱ	6.18
7	保健体育Ⅲ	5.91	保健体育Ⅰ	4.62	日本語スキルズ	5.96
8	日本語スキルズ	5.89	歴史Ⅱ	4.59	保健体育Ⅰ	5.95
9	保健体育Ⅰ	5.53	キャリアデザイン	4.55	文化・芸術・思想ⅡB	5.91
10	国語Ⅲ	5.48	文化・芸術・思想ⅡA	4.55	国語Ⅱ	5.72

2) 語学

- H29には「興味」と「満足度」で「英語スキルズⅠ」「総合英語Ⅰ(R)」「総合英語Ⅳ」の3科目が上位を占めており、「積極性」でも評価が近かった。「英語スキルズⅠ」は「興味」と「積極性」で1位になっており、「英語スキルズⅡ」の評価も高かった。「英語」以外の科目では、「日本文化」の評価が高かった。
- H28もH29と似ており、「英語スキルズⅠ」「総合英語Ⅰ(R)」「総合英語Ⅳ」が上位に入っていた。ただし、「積極性」では「英語スキルズⅠ」以外の評価は5位以下となっていた。そして、「海外英語研修」が「積極性」で2位に入るなど評価が高く、H29ほど高くないものの「日本文化」の評価も高めであった。

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	総合英語Ⅰ(R)	7.40	英語スキルズⅠ	5.43	総合英語Ⅰ(R)	7.26
2	英語スキルズⅠ	6.92	海外英語研修	5.37	英語スキルズⅠ	6.02
3	総合英語Ⅳ	6.38	上級英語Ⅰ	5.07	総合英語Ⅳ	5.89
4	海外英語研修	6.11	英語スキルズⅡ	5.00	総合英語Ⅲ	5.75
5	日本文化	6.00	総合英語Ⅳ	5.00	日本文化	5.71
6	上級英語Ⅰ	5.65	日本文化	4.48	総合英語Ⅰ(G)	5.34
7	総合英語Ⅰ(G)	5.44	英語表現技法	4.31	海外英語研修	5.19
8	英語スキルズⅡ	5.39	総合英語Ⅰ(G)	4.08	英語スキルズⅡ	4.80
9	総合英語Ⅲ	5.06	総合英語Ⅰ(R)	3.46	英語表現技法	4.74
10	英語表現技法	3.97	総合英語Ⅲ	3.45	上級英語Ⅰ	4.63

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	英語スキルズⅠ	6.88	英語スキルズⅠ	6.18	総合英語Ⅳ	7.05
2	総合英語Ⅰ(R)	6.88	総合英語Ⅳ	6.14	総合英語Ⅰ(R)	6.82
3	総合英語Ⅳ	6.82	英語スキルズⅡ	5.40	英語スキルズⅠ	6.53
4	日本文化	6.01	総合英語Ⅰ(R)	5.39	日本文化	6.38
5	英語スキルズⅡ	5.83	日本文化	5.10	英語スキルズⅡ	6.10
6	総合英語Ⅲ	5.61	上級英語Ⅱ	5.00	総合英語Ⅲ	5.89
7	上級英語Ⅰ	5.59	総合英語Ⅲ	4.94	上級英語Ⅰ	5.78
8	上級英語Ⅱ	5.31	上級英語Ⅰ	4.71	英語表現技法	5.42
9	英語表現技法	4.79	英語表現技法	4.38	上級英語Ⅱ	3.94
10	総合英語Ⅰ(G)	3.75	総合英語Ⅰ(G)	3.80	総合英語Ⅰ(G)	3.42

3) 数理

- H29の「数理」では、3指標共にトップは異なっているが、上位の5科目はほぼ共通しており、「数理統計A」「応用数学Ⅱ」「微分積分Ⅰ」「微分積分Ⅱ」「基礎数学Ⅱ」が上位になっていた。ただし、「微分積分Ⅱ」は「満足度」では8位となっており、他の4科目に比べるとやや低くなっていた。
- H28でも「数理統計A」「応用数学Ⅱ」「微分積分Ⅱ」「基礎数学Ⅱ」の評価は高めであったが、今回上位だった「微分積分Ⅰ」は「積極性」と「満足度」でかろうじて上位10位以内に入っているだけで、「興味」には入っていなかった。その他では「応用数学Ⅰ」の評価が高く、「積極性」で1位となっており、H29と差が見られた。

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	数理統計A	6.00	応用数学Ⅰ	5.40	微分積分Ⅱ	6.15
2	応用数学Ⅱ	5.07	数理統計A	4.50	数理統計A	6.00
3	応用数学Ⅰ	4.84	線形代数Ⅰ	4.09	応用数学Ⅱ	5.67
4	微分積分Ⅱ	4.83	微分積分Ⅱ	3.90	応用数学Ⅰ	4.76
5	物理化学Ⅰ	4.44	基礎数学Ⅱ	3.44	基礎数学Ⅱ	4.62
6	線形代数Ⅰ	4.33	応用数学Ⅱ	3.24	物理化学Ⅰ	4.62
7	基礎数学Ⅱ	4.29	物理化学Ⅰ	3.21	線形代数Ⅰ	4.18
8	応用物理Ⅰ	4.13	応用物理Ⅰ	3.04	基礎数学Ⅰ	3.19
9	基礎数学Ⅰ	2.94	微分積分Ⅰ	2.84	応用物理Ⅱ	2.95
10	物理化学Ⅱ	2.62	物理化学Ⅱ	2.21	微分積分Ⅰ	2.26

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	数理統計A	6.00	応用数学Ⅱ	6.15	微分積分Ⅰ	6.86
2	微分積分Ⅱ	5.98	微分積分Ⅱ	5.91	基礎数学Ⅱ	6.81
3	基礎数学Ⅱ	5.97	基礎数学Ⅱ	5.91	数理統計A	6.75
4	微分積分Ⅰ	5.69	数理統計A	5.50	応用数学Ⅱ	6.64
5	応用数学Ⅱ	5.66	微分積分Ⅰ	5.15	数理統計B	6.25
6	物理化学Ⅰ	5.53	応用数学Ⅰ	4.40	物理化学Ⅰ	5.81
7	応用数学Ⅰ	5.26	物理化学Ⅰ	4.38	応用数学Ⅰ	5.69
8	数理統計B	5.00	物理化学Ⅲ	3.59	微分積分Ⅱ	5.44
9	基礎数学Ⅰ	4.37	数理統計B	3.50	線形代数Ⅰ	4.85
10	物理化学Ⅲ	4.00	応用物理Ⅱ	3.00	物理化学Ⅲ	4.46
10	—	—	基礎数学Ⅰ	3.00	—	—

4)T

- H29の「T」の科目では、3指標共に「コンピュータ I」がトップとなった。そして、「興味」と「満足度」では「情報工学 I」と「情報伝送工学」が2位、3位となり、「積極性」では「電気機器」が2位になるなど上位に入っていた。
- H28では「インターンシップ」が「積極性」と「満足度」で1位、「興味」で2位となり、「創造実験 I」が「興味」で1位、「満足度」で2位になっていたが、H29で上位になっている科目で上位10位以内に入っていたものは非常に少なかった。数少ない中で見られたのは「コンピュータ I」で、「興味」で3位、「満足度」で7位となっており、「情報工学 I」は「満足度」で10位に入っていた。

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	創造実験 I	8.33	インターンシップ	8.33	インターンシップ	7.61
2	インターンシップ	8.13	システム設計 II	7.39	創造実験 I	7.59
3	コンピュータ I	7.93	設計製図	7.29	パワーエレクトロニクス	7.29
4	パワーエレクトロニクス	7.71	デザインメソッド I	7.10	設計製図	7.29
5	発変電工学	7.71	創造実験 I	7.00	デザインメソッド I	7.26
6	デザインメソッド I	7.58	エンジニアリングマネジメントb	6.96	システム設計 II	7.17
7	システム設計 II	7.39	パワーエレクトロニクス	6.88	コンピュータ I	7.07
8	デザインメソッド II	7.33	発変電工学	6.74	発変電工学	6.88
9	システム工学	7.29	創造実験IV	6.67	システム工学	6.46
10	エンジニアリングマネジメントb	7.17	デジタル回路／電子回路 I	6.30	情報工学 I	6.38

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	コンピュータ I	8.70	コンピュータ I	7.61	コンピュータ I	8.70
2	情報工学 I	7.95	電気機器	7.61	情報工学 I	7.95
3	情報伝送工学	7.73	情報工学 I	7.05	情報伝送工学	7.73
4	創造実験 I	7.71	卒業研究	7.00	電気機器	7.61
5	電気機器	7.39	創造実験 I	6.88	データ通信ネットワーク	7.17
6	卒業研究	7.25	インターンシップ	6.72	デザインメソッド I	7.08
7	データ通信ネットワーク	7.17	電気システム設計 I	6.67	創造実験 I	7.08
8	電気システム設計 I	7.04	データ通信ネットワーク	6.52	電気基礎	7.08
9	インターンシップ	6.90	コンピュータIII	6.48	インターンシップ	7.07
10	創造実験 II	6.76	メカトロニクス	5.75	創造実験 II	6.47

5)M

- H29の「M」では、「インターンシップ」が「興味」と「積極性」で1位であったが、「満足度」では8位と低かった。「満足度」で1位の「デザインメソッドⅠ」は「積極性」で2位、「興味」で4位であり、「創造設計Ⅳ」は「興味」で2位、「積極性」で3位であった。
- H28には3つの指標共に「インターンシップ」が1位で、「満足度」以外はH29と同じ結果だった。また、「機械工学演習Ⅲ」「エンジニアリングマネジメント」「計測制御Ⅱ」などが上位に入っていたが、H29と共通しているのは「インターンシップ」のみであり、状況が大きく変わっていることが分かった。

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	7.63	インターンシップ	7.57	インターンシップ	6.32
2	エンジニアリングマネジメント	6.84	計測制御Ⅱ	6.50	機械工学演習Ⅲ	6.25
3	機械工学演習Ⅲ	6.56	機械工学演習Ⅲ	6.25	エンジニアリングマネジメント	6.22
4	計測制御Ⅱ	6.50	エンジニアリングマネジメント	6.22	材料力学Ⅱ	6.05
5	材料力学Ⅰ	6.45	卒業研究	6.00	デザインメソッドⅡ	5.71
6	卒業研究	6.11	材料力学Ⅱ	5.92	卒業研究	5.69
7	材料力学Ⅱ	6.05	材料力学Ⅰ	5.65	機械工学特論Ⅰ	5.18
8	機械工学特論Ⅰ	5.54	創造設計Ⅲ	5.16	機械製図Ⅰ	5.16
9	デザインメソッドⅡ	5.43	デザインメソッドⅡ	4.71	メカトロニクスⅠ	5.00
10	創造設計Ⅲ	5.33	計測制御Ⅰ	4.61	情報リテラシー	5.00

■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	9.13	インターンシップ	8.64	デザインメソッドⅠ	7.50
2	創造設計Ⅳ	8.08	デザインメソッドⅠ	7.29	材料力学Ⅱ	7.31
3	創造設計Ⅰ	7.71	創造設計Ⅳ	7.12	エンジニアリングマネジメント	7.25
4	デザインメソッドⅠ	7.29	材料力学Ⅰ	6.72	機械工学演習Ⅰ	7.14
5	エンジニアリングマネジメント	7.25	機械製図Ⅰ	6.60	工業力学Ⅱ	7.11
6	機械工学概論Ⅰ	6.85	材料力学Ⅱ	6.54	機械材料	6.94
7	機械工学演習Ⅰ	6.67	創造設計Ⅰ	6.52	創造設計Ⅳ	6.92
8	機械材料	6.61	エンジニアリングマネジメント	6.50	インターンシップ	6.82
9	機械製図Ⅰ	6.60	機械工学演習Ⅰ	6.43	機械製図Ⅰ	6.60
10	材料力学Ⅱ	6.54	機械材料	5.97	機械工学実験Ⅰ	6.40

6) G・J

- H29の「G・J」では、3指標共にトップは異なっていたが、「デザインメソッドⅠ」は「満足度」が1位、「興味」と「積極性」が2位になっていた。そして、「カレントイングリッシュ」が「興味」で1位、「インターンシップ」が「積極性」で1位となっており、これらの科目はいずれも、3指標で上位10位以内に入っていた。その他では「デザインメソッドⅡ」「英語総合技能Ⅱ」「創造設計Ⅰ」などが上位になっていた。
- H28には「インターンシップ」が「興味」「積極性」で1位、「満足度」で3位で、H29より高い評価であった。そして、「コンピュータリテラシーⅠ」が3指標共に2位にあり、この点はH29とは異なっていた。また、H29に上位に入った「カレントイングリッシュ」は3指標にまったく入っていなかった。そして、「デザインメソッドⅠ」は、H28にも3指標で上位10位以内に入っていたが、H29ほど高くはなかった。同類の「デザインメソッドⅡ」は、「満足度」では1位で、他指標の評価も高めであった。

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	7.31	インターンシップ	7.31	デザインメソッドⅡ	7.05
2	コンピュータリテラシーⅠ	7.07	コンピュータリテラシーⅠ	6.63	コンピュータリテラシーⅠ	6.41
3	英語討議技法	6.67	卒業研究	5.74	インターンシップ	6.03
4	デザインメソッドⅡ	6.63	創造設計Ⅰ	5.34	デザインメソッドⅠ	5.87
5	デザインメソッドⅠ	6.41	英語討議技法	5.17	エンジニアリングマネジメント	5.69
6	エンジニアリングマネジメント	6.35	エンジニアリングマネジメント	5.14	英語討議技法	5.67
7	卒業研究	5.88	デザインメソッドⅠ	4.89	情報システムⅡ	5.56
8	情報システムⅡ	5.81	プログラミング基礎	4.89	英語総合技能Ⅰ	5.50
9	創造設計Ⅰ	5.67	情報システムⅡ	4.86	創造設計Ⅰ	5.22
10	プログラミング基礎	5.33	デザインメソッドⅡ	4.25	情報数学Ⅱ	5.15

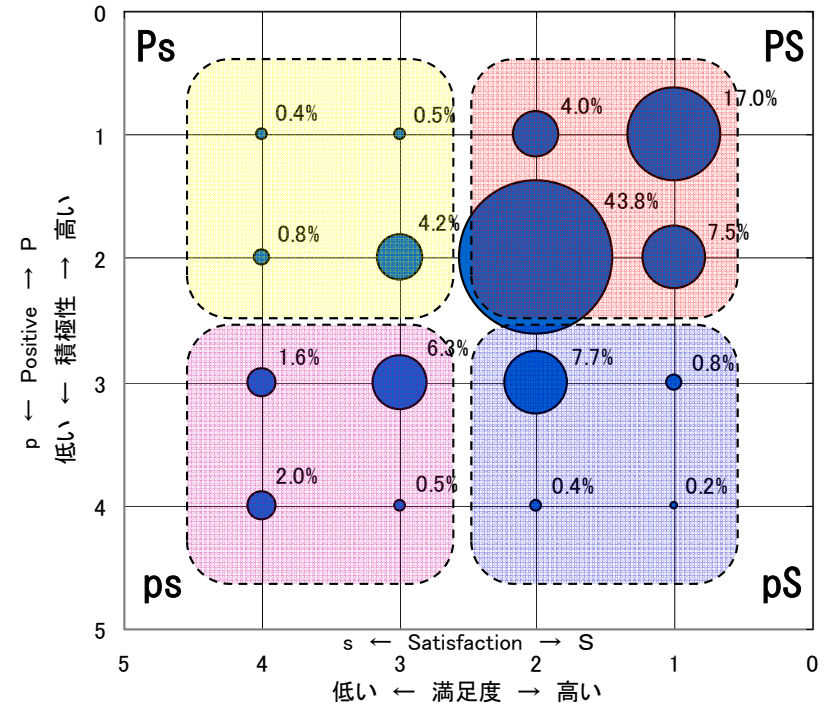
■H29で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	カレントイングリッシュ	7.35	インターンシップ	8.18	デザインメソッドⅠ	7.50
2	デザインメソッドⅠ	7.33	デザインメソッドⅠ	7.67	デザインメソッドⅡ	7.50
3	創造設計Ⅰ	7.04	デザインメソッドⅡ	6.14	英語総合技能Ⅱ	7.33
4	インターンシップ	6.82	プログラミング基礎	5.89	カレントイングリッシュ	6.76
5	デザインメソッドⅡ	6.82	英語総合技能Ⅱ	5.67	創造設計Ⅰ	6.30
6	英語総合技能Ⅱ	6.67	創造設計Ⅰ	5.56	情報システムⅠ	5.95
7	プログラミング基礎	5.71	コンピュータリテラシーⅠ	5.50	プログラミング基礎	5.89
8	コンピュータリテラシーⅠ	5.67	カレントイングリッシュ	5.29	インターンシップ	5.68
9	デザインメソッドⅢ	5.56	デザインメソッドⅢ	5.00	デザインメソッドⅢ	5.37
10	情報ビジネス英語Ⅰ	5.00	情報処理Ⅲ	5.00	ネットワークシステム	5.29
10	卒業研究	5.00	—	—	—	—

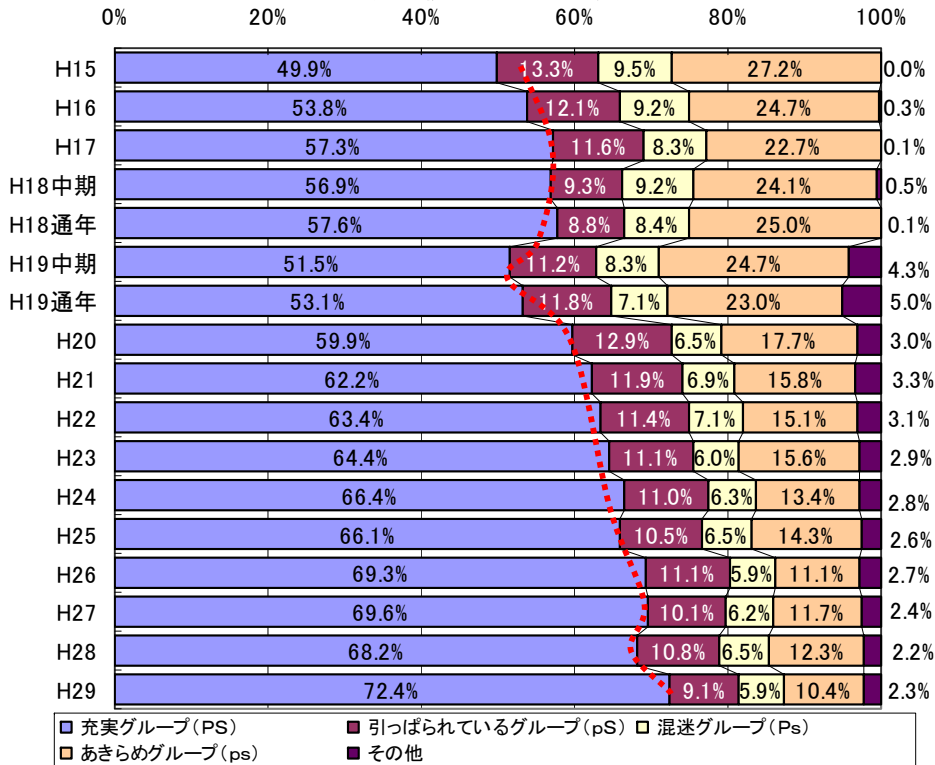
1) 全体傾向

- 「積極性」と「満足度」によるPS指標を見ると、積極性、満足度ともに肯定的である「PS・充実グループ」が72.4%と最も多かった。
- 「PS・充実グループ」の内訳を見ると、「まあ積極的」かつ「まあ満足」という層が43.8%で最も多く、「積極的」かつ「満足」という非常に良い状態の学生は17.0%であった。
- 上記以外では「pS・引っぱられているグループ」が9.1%、「Ps・混迷グループ」が5.9%、「ps・あきらめグループ」が10.4%であった。
- 経年変化を見ると、「PS・充実グループ」は前回より4.2ポイント増加して過去最高となった。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は前回より1.9ポイント減少して過去最低となった。

■ 満足度と積極性の関係



■ 満足度と積極性 経年変化

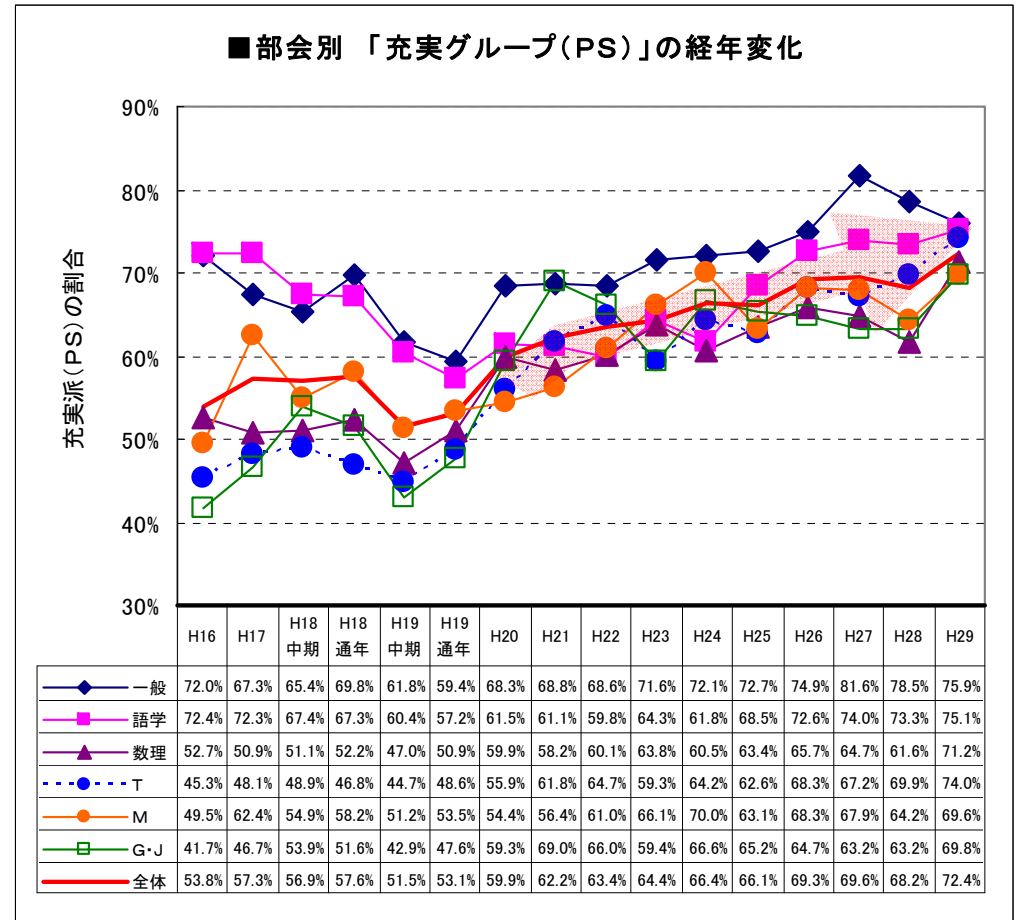
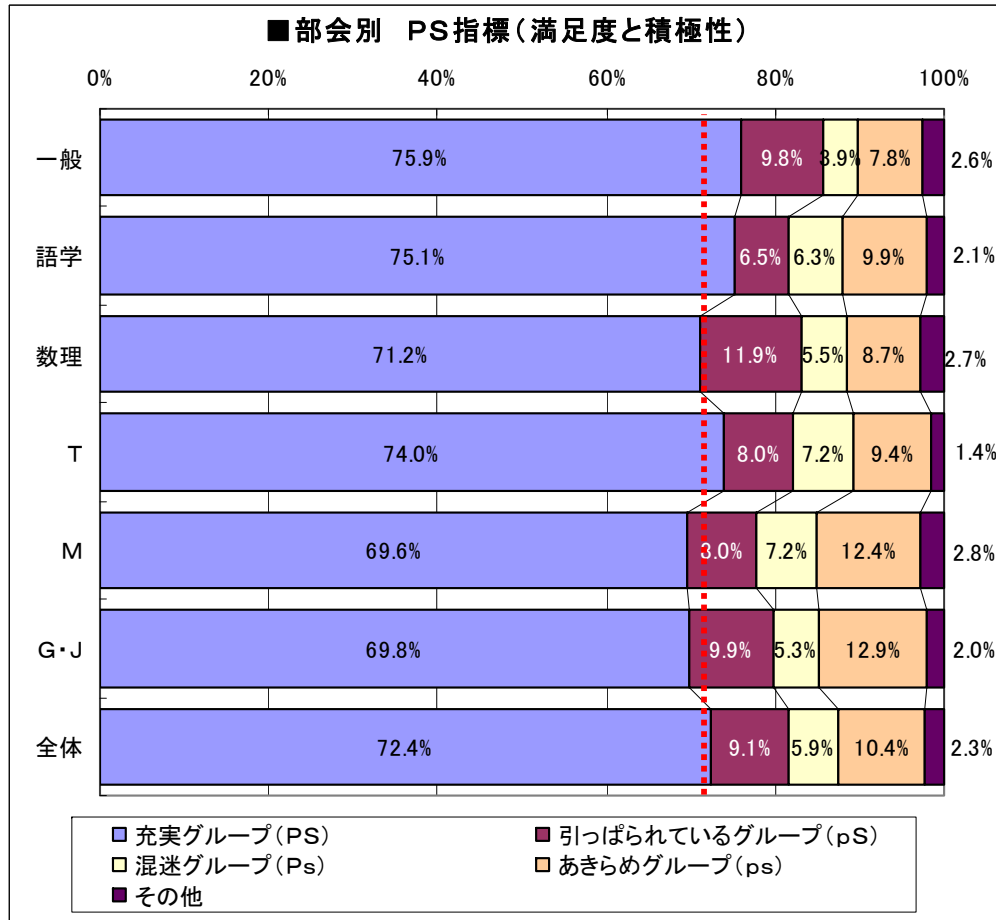


■ PS指標の内訳

記号	指標	想像される特性	領域の合計
PS (充実グループ)	● 積極性も満足度も高い	● 授業に積極的に取り組み、結果として満足度も高い。 ● 最も良い状態にあり、達成度も高いと想像できる。	72.4%
pS (引っぱられているグループ)	● 積極性は低い ● 満足度は高い	● それほど頑張らなかつたが、満足している。周囲、教員に引っぱられてうまくいっている。 ● 求めるレベルが低いことも考えられるが、授業が期待以上というケースも考えられる。	9.1%
Ps (混迷グループ)	● 積極性は高い ● 満足度は低い	● 目標が高すぎたことも考えられるが、授業内容が期待はずれ。 ● 最も注意すべき状態であり、この層の満足度を上げることが最優先。	5.9%
ps (あきらめグループ)	● 積極性も満足度も低い	● 授業に期待がなく積極性が低く満足度も低い。 ● まず、授業に取り組む態度を見直させることが必要。	10.4%

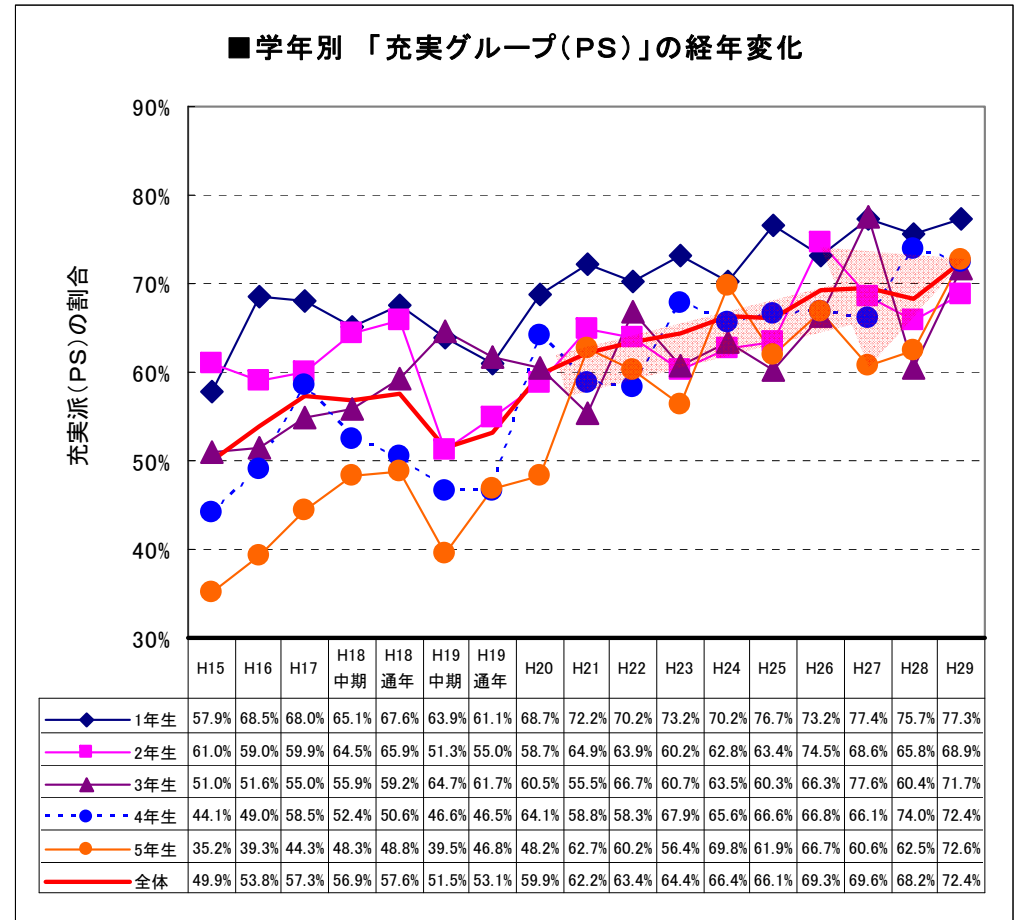
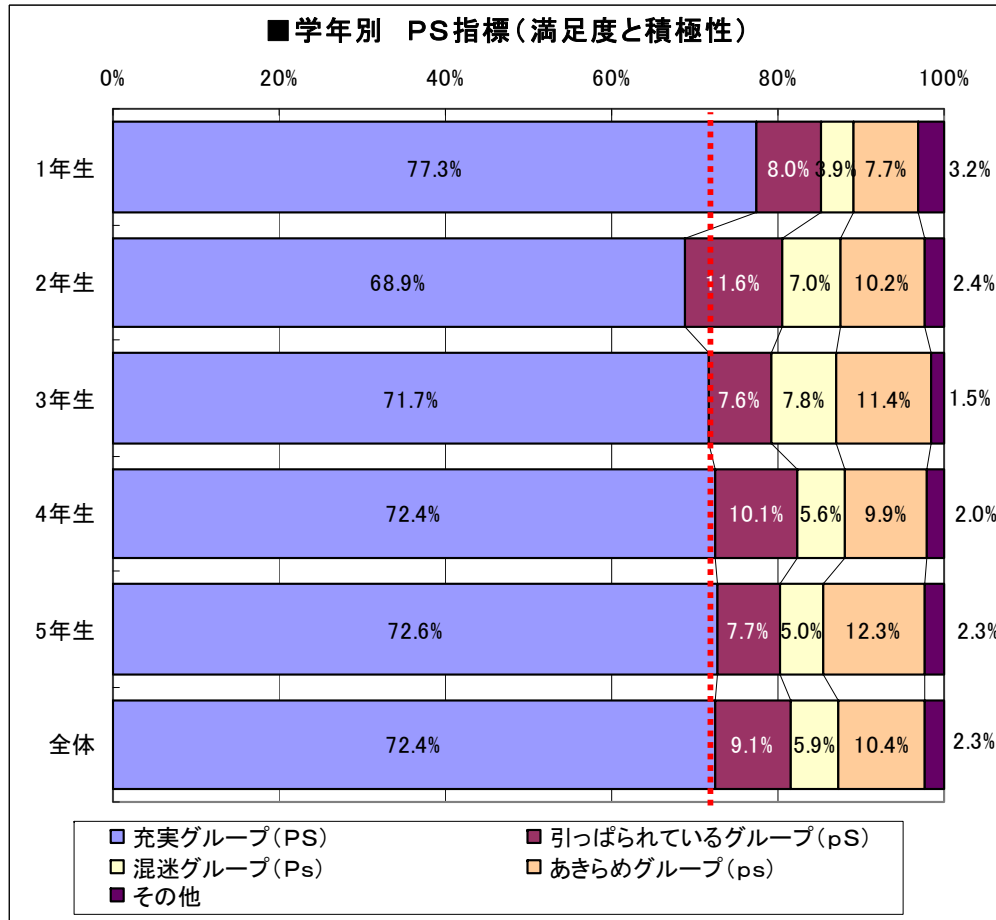
2)部会別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」の割合を部会別に比較したところ、「一般」が75.9%と最も多かった。次いで、「語学」が75.1%、「T」が74.0%、「数理」が71.2%、「G・J」が69.8%と続き、わずかな差ではあるが「M」が69.6%で最も少なかった。トップの「一般」と「M」の差は6.3ポイントであった。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は「G・J」で12.9%、「M」で12.4%であり、最も少ないのは「一般」の7.8%であった。
- 「PS・充実グループ」の経年変化を見ると、「一般」はH27から減少傾向が続いており、今回は前回より2.6ポイント低下していた。一方、それ以外の部会は全て前回を上回っており、「語学」「数理」「T」「G・J」は過去最高となった。



3) 学年別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」の割合を学年別に比較すると、「1年生」が77.3%で最も多く、「5年生」が72.6%、「4年生」が72.4%、「3年生」が71.7%、「2年生」が68.9%と続いており、「1年生」と「2年生」との差は8.4ポイントであった。そして、「1年生」を除くと高学年ほど「PS・充実グループ」が増加する傾向が見られた。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は「5年生」が最も多く、学年との相関関係は見られなかった。「5年生」は「1年生」に次いで「PS・充実グループ」が多かったが、「ps・あきらめグループ」も最も多いという特徴が見られた。
- 「PS・充実グループ」の経年変化を見ると、「4年生」だけが前回は下回っており、他の学年は前回より充実している様子うかがえた。特に「3年生」と「5年生」は前回から大きく増加しており、「5年生」は7割を超えて過去最高となった。



1) 全体傾向、部会別比較、学年別比較

	分野ごとの意見	まとめ
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 82.8%が「興味を持って授業を受けた」と答えており、前回は2.2ポイント上回って過去最高となった。 □ 自宅で学習している時間を見ると、これまでで最もしっかりと勉強している様子が見られた。 □ 79.2%の学生が「授業に積極的に取り組んだ」と答えており、積極性は過去最高となった。 □ 「授業に満足」という回答が過去最高の25.7%であり、肯定的な意見の合計も82.2%で過去最高となった。 □ 授業評価では「教科書、教材、資料など」の評価が高く、「好きな科目である」は意見が分かれる傾向が見られた。 □ 「教科書、教材、資料など」の評価は継続的に高く、「好きな科目である」は前回は大きく上回って過去最高となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 授業の満足度は82.2%で、過去最高となった。 ▶ 「興味」「積極性」も過去最高となった。 ▶ 「自宅での学習時間」を見ると、これまでで最も勉強しているようであった。 ▶ 「教科書、教材、資料など」の評価は継続的に高く、「好きな科目である」は過去最高となった。
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「一般」「語学」「T」は「興味」と「積極性」が高めで、「満足度」はこの3部会と「数理」が高く、全ての部会でほぼ8割以上が満足していた。 □ 「宿題、予習、復習時間」は「数理」が最も長かった。「しなかった」は「数理」の3.7%に対して、「語学」では32.6%と多かった。 □ 「数理」「T」「M」は「興味」「積極性」「満足度」がいずれも過去最高となった。特に「数理」の満足の向上が目立っていた。 □ 「一般」と「語学」は授業の評価が高めで、「M」は全体的に低めであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「興味」「積極性」は「一般」「語学」「T」が高い。 ▶ 「満足度」は「一般」「語学」「数理」「T」が高い。 ▶ 「学習時間」は「数理」が最も長い、「語学」は自宅学習をしない傾向が見られる。 ▶ 「数理」「T」「M」で「興味」「積極性」「満足度」が過去最高となった。
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「1年生」で肯定的な意見が多く、他の学年間の差は非常に少なかった。 □ 勉強時間は「5年生」が長く、全体としては低学年ほど学習時間が短い傾向が見られた。 □ 「興味」「積極性」は「4年生」以外で前回は上回り、「満足度」は「1年生」「4年生」「5年生」が過去最高となった。 □ 「1年生」は授業の内容評価が高いものが見られ、「3年生」と「5年生」は低めであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「1年生」が最も高く、他の学年間の差は非常に少なかった。 ▶ 「学習時間」は「5年生」が最も長く、低学年ほど短い傾向が見られた。 ▶ 経年変化を見ると、「1年生」「4年生」「5年生」の「満足度」が過去最高となった。

平成29年度

高専授業アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成30年5月31日
 - 発行者 国際高等専門学校
 - 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
 - 編集 金沢工業大学企画部CS室
-

無断複製厳禁